SONY

3-059-561-**03** (1)

デジタルビデオカメラレコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

Digital 8

Digital Handycam

DCR-TRV620K

目次

必ずお読みください

お使いになる前に

本機はDigital8（デジタルエイト）Ð方式のデジタルビデオカメラレコーダーです。
Hi8/Ðマークのついたハイエイト（ハイエイト）/ Digital8（デジタルエイト）テープを使用します。
録画方式はDigital8（デジタルエイト）Ð方式になります。また、本機は、他機で撮影したHi8（ハイエイト）Hi8方式、またはスタンダード8ミリ8方式の画像を再生することができます。よりよいつなぎ撮りのために、これらの方式とDigital8（デジタルエイト）Ð方式で記録した映像を同一テープに混在させないことをお勧めします。
また、本取扱説明書に記載された再生機能には、Digital8（デジタルエイト）Ð方式で撮影された映像にのみ有効なものがありますので、ご了承ください。

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

録画内容の補償はできません。

万一、ビデオカメラレコーダーなどの不具合により録画や再生がされなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

液晶画面、ファインダーおよびレンズについて

液晶画面やカラーファインダーは非常に精密度の高い技術で作られています。黒い点が現れたり、赤や青、緑の点が消えないことがありますが、故障ではありません（99.99%またはそれ以上の割合で画面上は正常に動きます）。これらの点は、テープに記録されません。
液晶画面やファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。

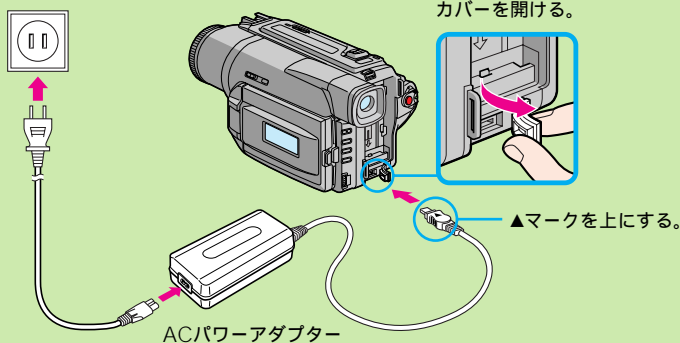
本書内の写真について

液晶画面やファインダーの映像を説明するのに、スチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

とにかく撮って見る

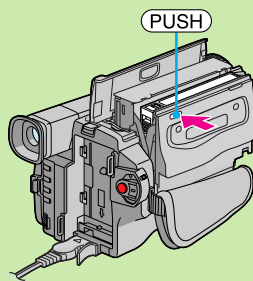
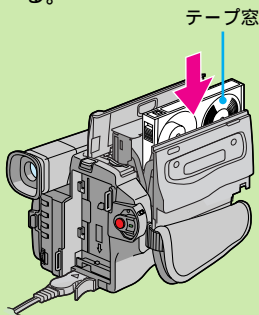
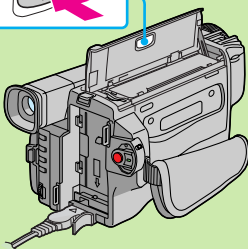
ここでは本機の使い方を簡単に説明します。
詳しくは（　）内のページをご覧ください。

1 電源をつなぐ（10ページ）

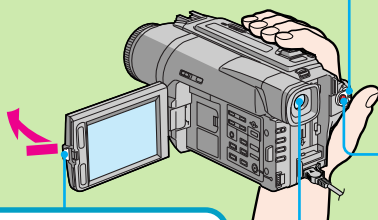
屋外ではバッテリーを使います →6ページ

2 カセットを入れる（11ページ）

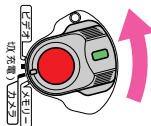
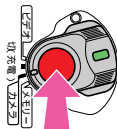
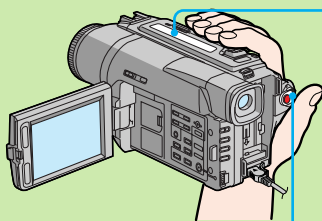
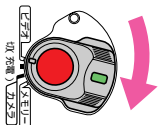
❶ **カセットぶたを開け、カセット取出しボタンを押す（カセット入れは自動で上がって開きます）。**

❷ **テープ窓を外側に、誤消去防止ツマミを上側にしてカセットを入れる。**

❸ **PUSHマークを押して、カセット入れを閉める（カセット入れは自動で下がります）。カセットぶたを閉める。**

3 撮影する（12ページ）

❶ レンズキャップをはずす。

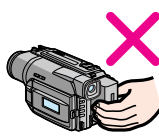
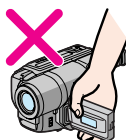
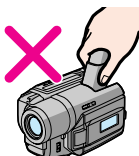
❷ 緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。

❸ **OPENボタンを押しながら、液晶画面を開ける。**
液晶画面に画像が映る。

ファインダー
液晶画面を閉じているときは、この部分に目を当てて画像を見ます。

❹ **赤いボタンを押す。**
撮影が始まる。
もう1度押すと止まる。

4 液晶画面で見る（20ページ）

❶ **緑のボタンを押しながら「ビデオ」にする。**

❷ **◀◀巻戻しを押してテープを巻き戻す。**

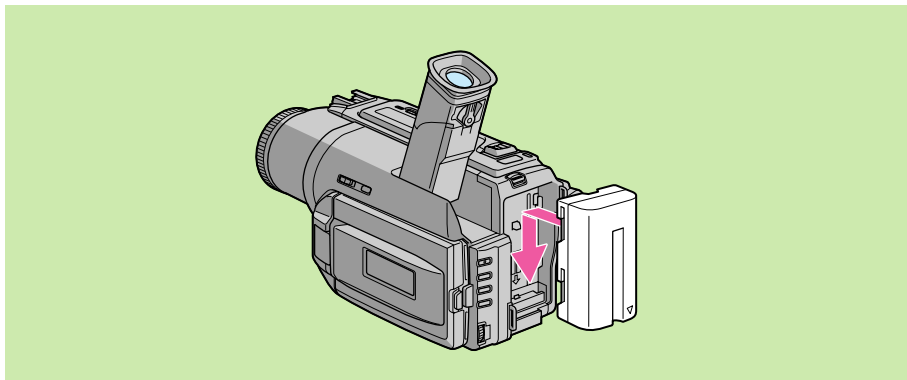
❸ **►再生を押すとテープが再生される。**

ご注意

ファインダーや液晶画面またはバッテリーをつかんで、本機を持ち上げないでください。

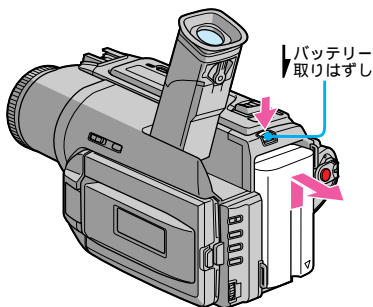
とにかく撮って見る

準備1 電源を準備する

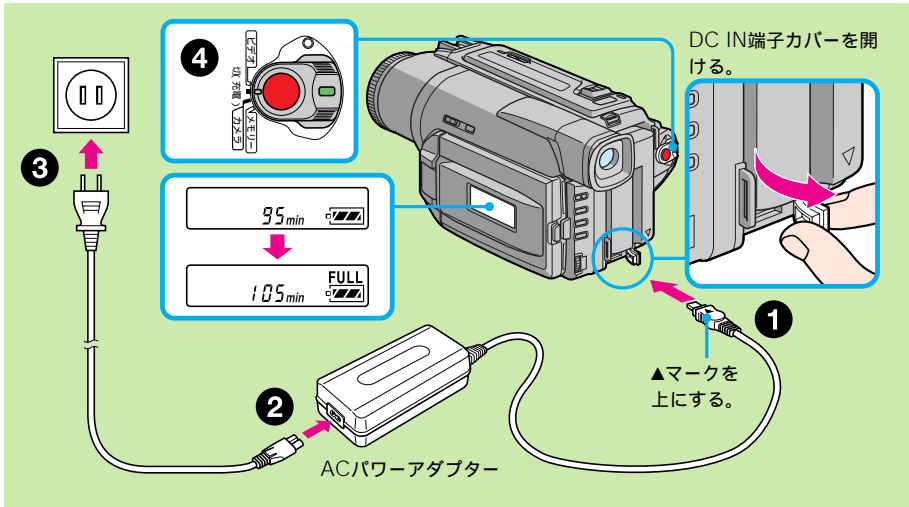
バッテリーを取り付ける

本機を屋外で使用するときは、バッテリーを取り付けます。

バッテリーを取り付けた後は
バッテリーをつかんで本機を持ち運ばないでください。

バッテリーを押しながら下へずらす。

本体から取りはずす

バッテリー取りはずしボタンを押しながらバッテリーを上へずらし、取りはずす。

バッテリーを充電する

バッテリーは充電してからお使いください。本機でバッテリーの充電ができます。
本機の電源には、“インフォリチウム”バッテリー（Lシリーズ）を使用します。それ以外のバッテリーはお使いになれません。

ご注意

- ACパワーアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。
- バッテリーは水にぬらさないでください。
- バッテリーを使用せずに長期間保管するときは、一度満充電してから使い切り、涼しい場所に保管してください。

満充電になると
表示窓のバックライトが消灯します。

表示窓に表示されるバッテリー残量時間は
ファインダーを使用したときの連続撮影時間の目安です。

バッテリーは
お買い上げ時に若干充電されています。

❶ ACパワーアダプターを本機のDC IN端子につなぐ。

DC IN端子カバーを開け、ACパワーアダプターのプラグの▲マークを上にしてつなぐ。

❷ 電源コードをACパワーアダプターにつなぐ。

❸ 電源コードをコンセントにつなぐ。

❹ 電源スイッチを「切（充電）」にする。

充電が始まると、表示窓にバッテリー残量時間が表示される。

充電が終わると、バッテリー残量表示が「▬」になる**（実用充電）**。さらに約1時間、「FULL」が表示されるまで充電すると若干長く使える**（満充電）**。

バッテリーの充電が終わったら
ACパワーアダプターをDC IN端子から抜く。

準備

バッテリー残量を計算するまでは
表示窓には「– – – – min」が表示されます。

充電中の表示窓の表示
以下の場合、正しく表示されない、または点滅することがあります。
- バッテリーが正しく取り付けられていない。
- ACパワーアダプターが外れている。
- バッテリーが故障している。

海外でも充電できます
詳しくは109ページをご覧ください。

撮影中のバッテリー残量時間表示
使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。液晶画面を開閉したときは、正しい残量時間（分）を表示するのに約1分かかります。

バッテリー残量の表示時間が充分なのに電源がすぐに切れるときは
満充電すると正しく表示されます。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは
“インフォリチウム”バッテリーに対応した機器との間で、バッテリーの使用状況に関するデータ通信をする機能を持ったリチウムイオンバッテリーです。本機は“インフォリチウム”バッテリー（Lシリーズ）対応です。それ以外のバッテリーはお使いになれません。“インフォリチウム”バッテリーには InfoLITHIUM マークがついています。
InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

充電時間

バッテリー	満充電時間（実用充電時間）
NP-F330（付属）	150（90）
NP-F530/CF540/F550	210（150）
NP-F730/F750	300（240）
NP-F930/F950	390（330）
NP-F960	420（360）

使い切ったバッテリーを充電したときの時間（約　分）。

撮影時間

バッテリー	ファインダーで撮影		液晶画面で撮影	
	連続撮影時*	実撮影時**	連続撮影時*	実撮影時**
NP-F330（付属）	105（95）	60（55）	75（65）	40（35）
NP-F530	175（160）	100（90）	120（105）	70（60）
NP-CF540	205（185）	115（105）	140（125）	80（70）
NP-F550	210（190）	120（110）	145（130）	80（75）
NP-F730	365（325）	210（185）	265（240）	150（135）
NP-F750	440（395）	250（225）	305（270）	175（155）
NP-F930	575（520）	325（295）	415（375）	235（215）
NP-F950	675（610）	385（345）	475（430）	270（245）
NP-F960	790（710）	450（405）	565（505）	320（285）

満充電（（　）内は実用充電）してからの時間（約　分）。
* 25℃で連続撮影したときの時間の目安。低温では使用時間が短くなります。
**録画、スタンバイ、電源入／切、ズームなどを繰り返したときの撮影時間の目安。実際にはこれよりも短くなることがあります。
NP-500/510/710はお使いになれません。

再生時間

バッテリー	液晶画面で再生	液晶画面を閉じて再生
NP-F330（付属）	70（65）	100（90）
NP-F530	115（105）	170（155）
NP-CF540	135（125）	200（180）
NP-F550	145（130）	205（185）
NP-F730	260（235）	350（310）
NP-F750	295（265）	425（380）
NP-F930	405（370）	555（500）
NP-F950	465（420）	650（590）
NP-F960	550（495）	765（685）

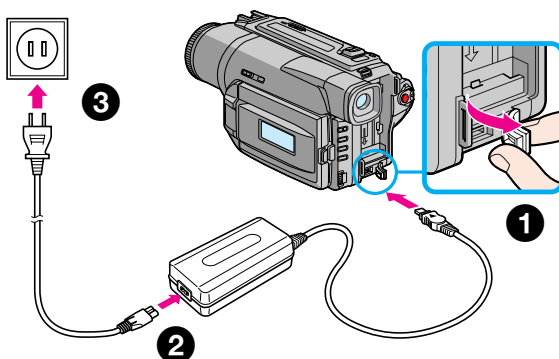
満充電（（　）内は実用充電）してからの時間（約　分）。
低温では使用時間が短くなります。
NP-500/510/710はお使いになれません。

コンセントにつないで使う

ご注意

- バッテリーをつけたままでもお使いいただけます。
- 電源供給はDC IN端子が優先されます。バッテリーで使用するとき、コンセントから電源コードを抜いても、DC IN端子にコードが差し込まれているとバッテリーから電源は供給されません。

自動車の電源では
別売りのDCパワーアダプター／チャージャーでお使いになれます。

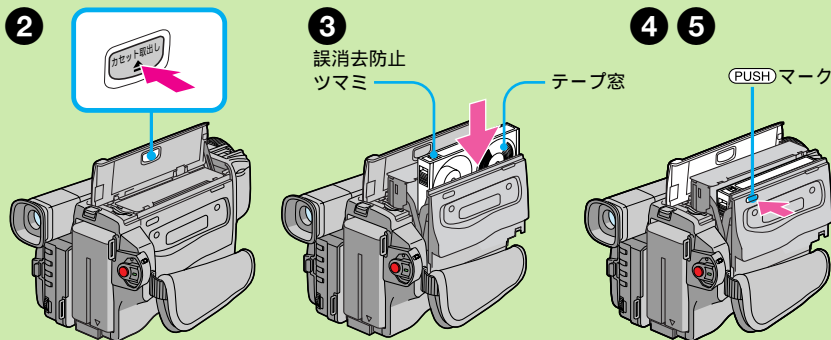
テープを再生するときなど長時間使用するときは、家庭用のコンセントを使うとバッテリー切れの心配なく使えます。

❶ **ACパワーアダプターを本機のDC IN端子につなぐ。**

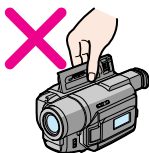
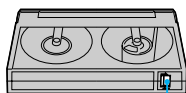
DC IN端子カバーを開け、ACパワーアダプターのプラグの▲マークを上にしてつなぐ。

❷ **電源コードをACパワーアダプターにつなぐ。**

❸ **電源コードをコンセントにつなぐ。**

準備2 カセットを入れる

Hi8/8マークのついたHi8（ハイエイト）/Digital8（デジタルエイト）テープをおすすめします。

ご注意

- カセット入れを無理に下げないでください。故障の原因になります。
- 本機での撮影方式はデジタルエイト方式です。
- 録画時間はSPモードでHi8テープに表示してある時間の半分、LPモードで3/4になります。
- スタンダード8ミリテープを使用して本機で撮影した場合、本機以外（他のDCR-TRV620Kを含む）での再生時にモザイク状のノイズが現れることがあります。
- PUSHマーク以外を押しているとカセット入れが閉まらないことがあります。
- カセットぶたをつかんで本機を持ち上げないでください。

間違って消さないために
カセットの背にある誤消去防止ツマミを横にずらし「赤」にします。

1 電源を準備する。（6ページ）

2 カセットぶたを開けカセット取出しボタンを押す。

カセット入れが自動的に上がって開く。

3 カセットを入れる。

テープ窓を外側に、誤消去防止ツマミを上にして入れる。

4 PUSHマークを押して、カセット入れを閉める。

カセット入れが自動的に下がる。

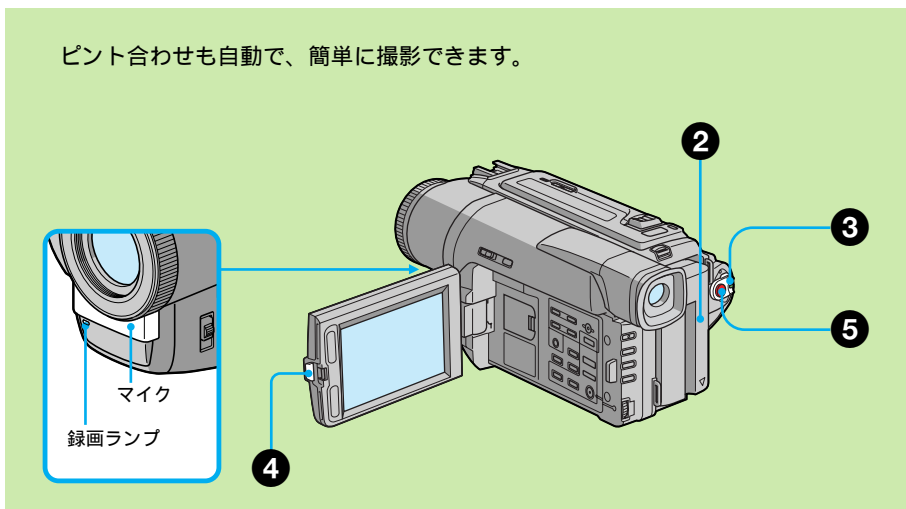
5 カセットぶたを閉める。

カセットを取り出す

「カセットを入れる」の手順で操作し、手順3で取り出す。

準備

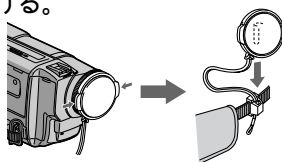
撮影する

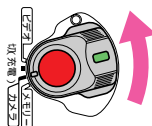
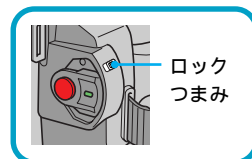
ピント合わせも自動で、簡単に撮影できます。

ご注意

- グリップベルトをしっかりしめてください。
- マイクに手が触れないようにしてください。

長時間録画したいときには
メニューの「録画モード」を「LP」にします（57ページ）。録画時間がSP（標準）モードの1.5倍になります。本機のLPモードで録画したテープは本機で再生することをおすすめします。

きれいなつなぎ撮りのために
カセットを取り出さない限り、きれいにつながります。バッテリーの交換時は電源スイッチを「切（充電）」にしてください。

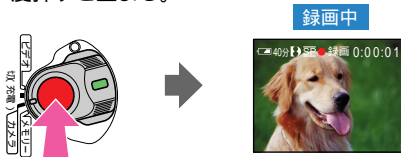
❶ レンズキャップを取りはずし、グリップベルトに取り付ける。

❷ バッテリーなどの電源を付け、カセットを入れる。
「準備1、2」（6〜11ページ）をご覧ください。

❸ 緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。
撮影スタンバイになる。

ロックつまみについて
ロックつまみを左側（ロック）にすると、気付かないうちに電源スイッチが「メモリー」になるのを防ぎます。（お買い上げ時はロックつまみは解除になっています。）

撮影スタンバイが3分以上続くと
自動的に電源が切れます。これはバッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するためです。再び撮影を始めるには、電源スイッチを１度「切（充電）」にしてから「カメラ」に戻します。

❹ **OPENボタンを押しながら液晶画面を開ける。**

ファインダーの画像は消える。

❺ **スタート/ストップボタンを押す。**

撮影が始まり、「●録画」の表示が出る。録画ランプが点灯する。
もう一度押すと止まる。

ご注意

液晶画面を開いているときは、ファインダーには画像が映りません。ただし、対面撮影中はファインダーにも画像が映ります。

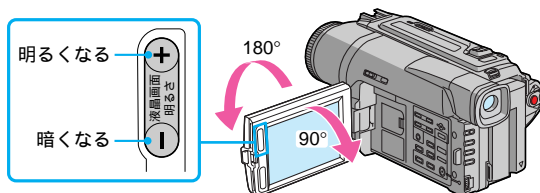
液晶画面は
屋外では日差しの加減で見えにくい場合があります。ファインダーでの撮影をおすすめします。

対面撮影では
液晶画面に映る画像は鏡のように左右が反転しますが、記録される画像は実際の被写体と同じになります。

対面撮影中は
リモコンのゼロセットメモリーボタンは働きません。

対面撮影中の表示
撮影スタンバイ中は❚❚●、撮影中は●が表示されます。その他の表示は左右が反転します。表示が出ないものもあります。

液晶画面を調整する

液晶画面の明るさは、液晶画面明るさボタンを押して調節します。
また液晶画面はレンズの方向に180°まで、ファインダーの方向に90°まで回転し、角度を調節できます。
液晶画面を180°回転させると、液晶画面とファインダーにも☺が出ます。（**対面撮影モード**）

液晶画面を閉じるときは、液晶画面をカチッというまで垂直にしてから本体に戻します。

撮影が終わったら

1 **電源スイッチを「切（充電）」にする。**

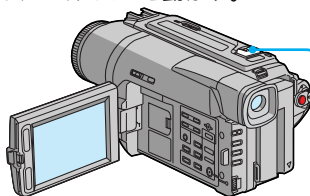
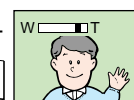
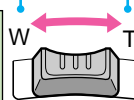
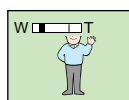
2 **液晶画面を閉じる。**

3 **カセットを取り出す。**

デジタルズームについて
- デジタルズームを使うと、ズーム倍率は100倍までになります。
- 画像をデジタル処理するため画質が低下します。

近くのものにピントがうまく合わないときは
ズームレバーをW側に動かして広角にします。ピントが合うのに必要な被写体との距離は、W側では約1cm以上、T側では約80cm以上です。

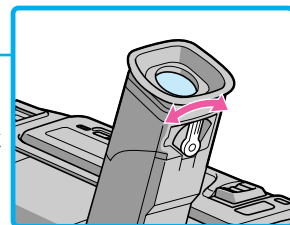
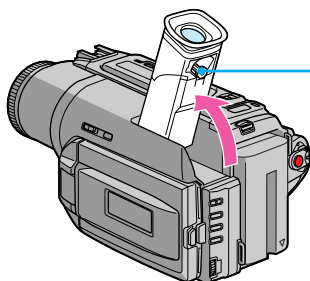
ズームする

ズームレバーを動かす。

軽く動かすとゆっくりズームし、さらに動かすと速くズームする。使いすぎると見づらい作品になります。

25倍を超えるズームはデジタルズームになります。
デジタルズームを使うには、メニューで「デジタルズーム」の倍率を選択してください。（57ページ）

このラインよりT側がデジタルズームになります。メニューで「デジタルズーム」の倍率を選ぶと表示されます。

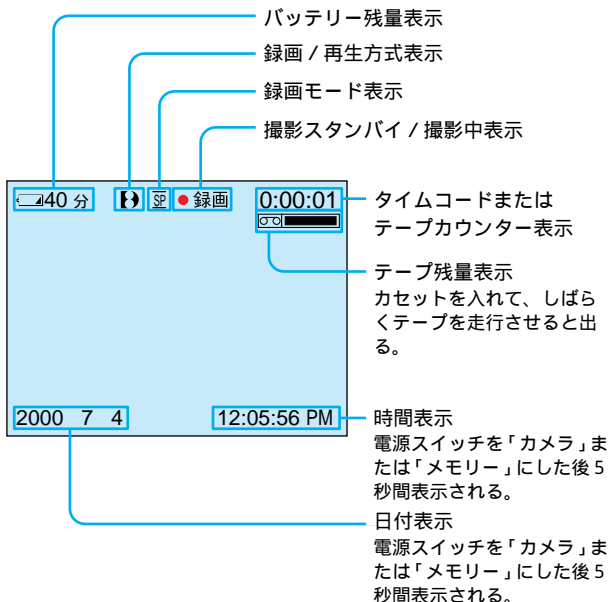
ファインダーで撮影する－視度調整

液晶画面を閉じて撮影するときは、ファインダーで画像を見ます。自分の視力に合わせてファインダー内の文字がはっきり見えるように、調整します。

ファインダーを上げて、視度調整つまみを動かす。

タイムコードについて（Digital8方式で記録されたテープのみ）
液晶画面またはファインダーにテープ走行時間が「0:00:00」（時：分：秒）と出ます。ビデオモードのときには「0:00:00:00」（時：分：秒：フレーム）と出ます。あとからこのタイムコードだけを書き直すことはできません。
Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープを再生すると、テープカウンターが表示されます。本機でカウンターリセットすることはできません。

撮影中の表示

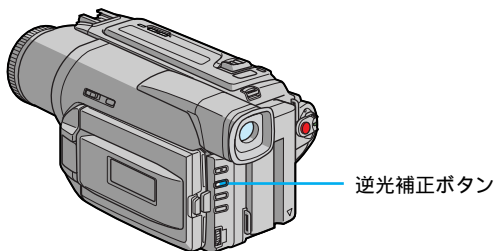
これらの表示はテープには記録されません。

撮る

逆光補正をする

逆光補正中に明るさボタンを押すと
逆光補正は解除されます。

被写体のうしろに光源があり、被写体が暗く映る時などに明るさの補正をします。

[撮影スタンバイ中]、[撮影中] または [メモリーモード中] に逆光補正ボタンを押す。

液晶画面またはファインダーに逆光補正表示が出ます。
逆光補正ボタンをもう一度押すと解除されます。

暗闇で撮るーNIGHTSHOT（ナイトショット）/ SUPER NIGHTSHOT（スーパーナイトショット）

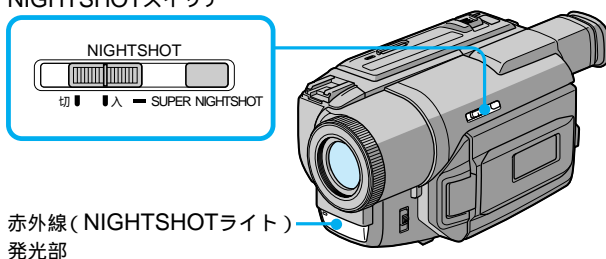
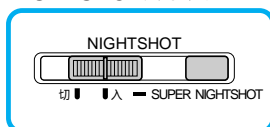
ご注意

- 昼間の屋外の明るいところではお使いにならないでください。故障の原因になります。
- NIGHTSHOTで撮影中の画像は、正しい色が表現されません。
- NIGHTSHOT時、オートフォーカスが合いにくい時は、マニュアルフォーカスをご使用ください。

NIGHTSHOT中は以下の操作ができません
- 明るさ調節
- プログラムAE

夜間に動植物を観察するときやキャンプなど、暗い場所で撮影することができます。

［撮影スタンバイ中］、［撮影中］または［メモリーモード中］にNIGHTSHOTスイッチを「入」にする。

液晶画面またはファインダーにNIGHTSHOT表示 ◙ と“NIGHTSHOT”が点滅します。
NIGHTSHOTスイッチを「切」にすると解除されます。

SUPER NIGHTSHOT時のシャッタースピードは
明るさによって自動的に変わります。このとき画像の動きは遅くなります。

SUPER NIGHTSHOT中は以下の操作ができません
- フェーダー
- デジタルエフェクト
- 明るさ調節
- プログラムAE

SUPER NIGHTSHOT （スーパーナイトショット）を使う

SUPER NIGHTSHOTボタンを使うと、NIGHTSHOTの最大16倍の感度で被写体を明るく撮影することができます。

❶ ［撮影スタンバイ中］または［撮影中］に**NIGHTSHOTスイッチを「入」にする。**

液晶画面またはファインダーに◙と“ NIGHTSHOT ”が点滅します。

❷ **SUPER NIGHTSHOTボタンを押す。**

液晶画面またはファインダーにS◙と“ SUPER NIGHTSHOT ”が点滅します。

SUPER NIGHTSHOTボタンをもう一度押すと解除されます。

NIGHTSHOTライトは
赤外線のため、目には見えません。ライトの届く範囲は約3mです。

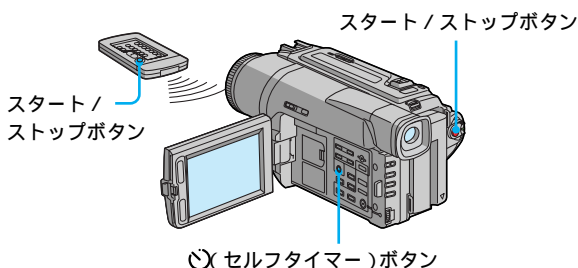
NIGHTSHOTライトを使う

NIGHTSHOTライトを使うと画像がよりはっきりします。メニューで「N.S.ライト」を「入」にします。（57ページ）

セルフタイマー撮影

ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- セルフタイマー撮影を実行したあと。
- 電源スイッチを「切（充電）」か「ビデオ」にしたとき。

セルフタイマーを使用すると、10秒後に自動的に撮影が始まります。自分を撮影したいときなどに使用してください。
リモコンも使えます。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
(セルフタイマー) ボタンを押す。

セルフタイマー表示が出る。

❷ **スタート／ストップボタンを押す。**

セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が早くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影が始まる。

撮影を止めるとき

スタート／ストップボタンをもう1度押す。リモコンを使うと便利です。

セルフタイマーで静止画を撮るとき

手順2でフォトボタンを押す。（26ページ）

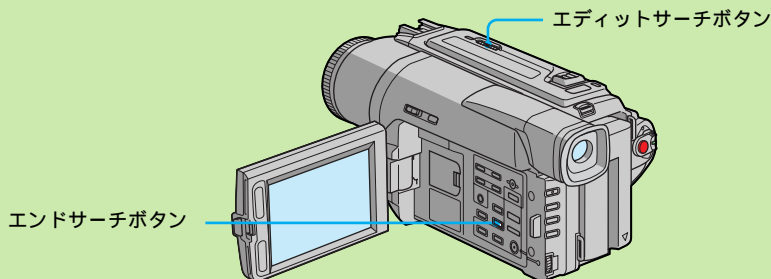
セルフタイマーを止めるとき

撮影スタンバイ中にもう1度(セルフタイマー) ボタンを押して、セルフタイマー表示を消す。

次の撮影開始点を探す

−エンドサーチ／エディットサーチ／レックレビュー

撮った画面が気になるときや、最後に撮影した画面からつなぎ撮りしたいときに使います。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、エンドサーチ／エディットサーチ／レックレビューはできません。
- エンドサーチをしてからつなぎ撮りをすると、まれに場面がきれいにつながらないことがあります。
- 撮影後、カセットを取り出すとエンドサーチは働きません。

テープの途中に記録されていない部分があると

エンドサーチが正しく働かない場合があります。

エンドサーチ

最後に撮影した終わりの部分に戻ります。

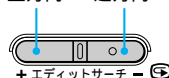
[撮影スタンバイ中] にエンドサーチボタンを押す。

最後に撮影した終わりの部分の約5秒間が再生されて、撮影スタンバイに戻る。

スピーカーまたはヘッドホンで音も確認できる。

エディットサーチ

次の撮影開始点を探します。

[撮影スタンバイ中] にエディットサーチ＋／−ボタンを押し続ける。 画像が再生される。

＋：場面を進める

−：場面を戻す

指を離したところが、次の撮影開始点になる。音は出ない。

レックレビュー

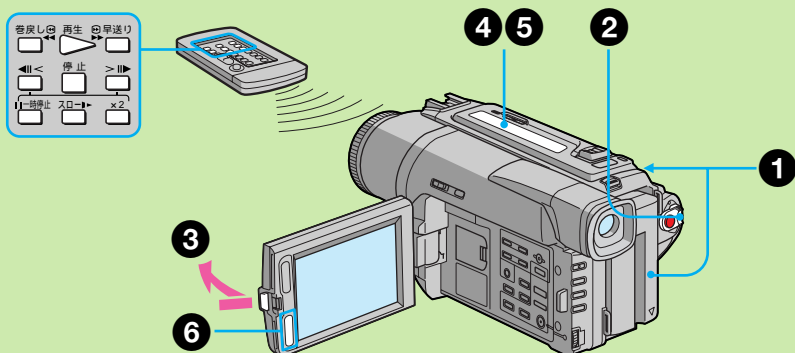
最後の場面を確認します。

[撮影スタンバイ中] にエディットサーチボタンの−側をポンと1回押す。

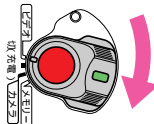
テープを停止させた部分が数秒間再生され、撮影スタンバイに戻る。

スピーカーまたはヘッドホンで音も確認できる。

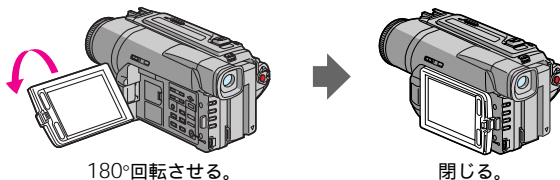
再生する

撮影したテープなどを液晶画面で見ます。液晶画面を閉じるとファインダーでも見られます。リモコンでも操作できます。

❶ バッテリーなどの電源を付け、再生したいカセットを入れる。

❷ 緑のボタンを押しながら、「ビデオ」にする。

ビデオ操作ボタンが点灯する。

❸ OPENボタンを押しながら、液晶画面を開ける。

液晶画面を外側に向けて本体に閉じることもできます。

180°回転させる。　閉じる。

❹ ◀◀巻戻しボタンを押す。

巻き戻しが始まる。

❺ ▶再生ボタンを押す。

画像が映る。

❻ 音量ボタンを押して、音量を調節する。

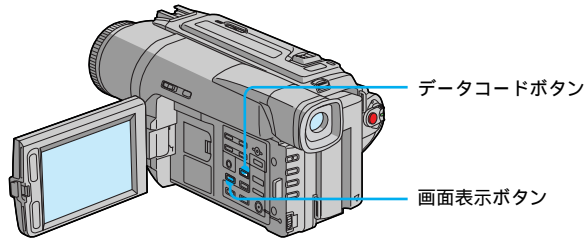
液晶画面を閉じているときは、
音が出ません。

再生を止める

■停止ボタンを押す。

テープカウンターなどの表示を出す－画面表示機能

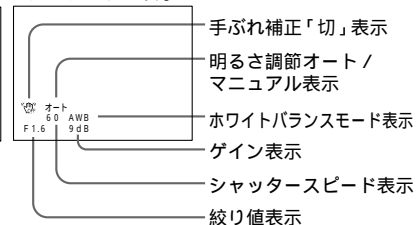
本体またはリモコンの画面表示ボタンを押す。

液晶画面に表示が出る。消すときはもう1度押す。

データコードについて

本機は撮影時の日付･時刻およびカメラデータを自動的に画像とは別にテープに記録しています(データコード機能)。

[再生中]に、本体またはリモコンのデータコードボタンを押す。

押すたびに次のように表示が変わります。

「日付表示」→「カメラデータの表示」→（表示なし）

カメラデータを表示させないようにする

メニューの「データーコード」で「日付データ」を選ぶ。(57ページ)
データコードボタンを押すたびに次のように表示が変わります。
「日付表示」←→（表示なし）

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープではデータコードは表示されません。
- “メモリースティック”を使って撮った画像には、カメラデータは記録されません。

カメラデータとは

撮影したときのビデオカメラの設定の情報です。撮影中は表示されません。

次のときは、「---- -- --」「--:--:--」を表示します。

- 何も記録されていない部分
- テープの傷やノイズなどでデータコードを読み取れない
- 日付・時刻を合わせないで撮影したテープ

データコードは

本機をテレビにつないだときはテレビ画面で確認することができます。（23ページ）

見る

ご注意

変速再生中は

- Digital8方式以外で記録したテープで変速再生するとノイズが出ます。
- 音声は出ません。
- 前の映像がモザイク状に残ることがあります。（Digital8方式再生時）

一時停止（静止画）について

- 3分以上続くと自動的に停止状態になります。再生するときは、もう1度►再生ボタンを押します。
- 前の画像が残ることがあります。

Digital8方式のスロー再生について

本機にはスロー画像をなめらかに再生する機能があります。ただし DV入力／出力端子から出力される信号にはこの機能は働きません。

逆方向再生について

画面の上下や中央に横縞が入ることがありますが、故障ではありません。

いろいろな再生

電源スイッチが「ビデオ」のときに操作します。

静止画を見る

［再生中］に❚❚一時停止ボタンを押す。
►再生ボタンまたは❚❚一時停止ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

早送りする

［停止中］に►►早送りボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

巻き戻す

［停止中］に◄◄巻戻しボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

逆方向に再生する

［再生中］にリモコンの＜ボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

画像を見ながら早送り／巻き戻しする（ピクチャーサーチ）

［再生中］に►►早送り／◄◄巻戻しボタンを押し続ける。
離すと、ふつうの再生に戻る。

早送り／巻き戻し中に画像を見る（高速アクセス）

［早送り中］または［巻き戻し中］に►►早送り／◄◄巻戻しボタンを押し続ける。
離すと、早送りまたは巻き戻しに戻る。

スロー画を見る

［再生中］にリモコンの❚►スローボタンを押す。
逆方向にスロー再生するときは、リモコンの＜ボタンを押してから❚►スローボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

2倍速で見る（倍速再生）

［再生中］にリモコンのX2ボタンを押す。
逆方向に倍速再生するときは、リモコンの＜ボタンを押してからX2ボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

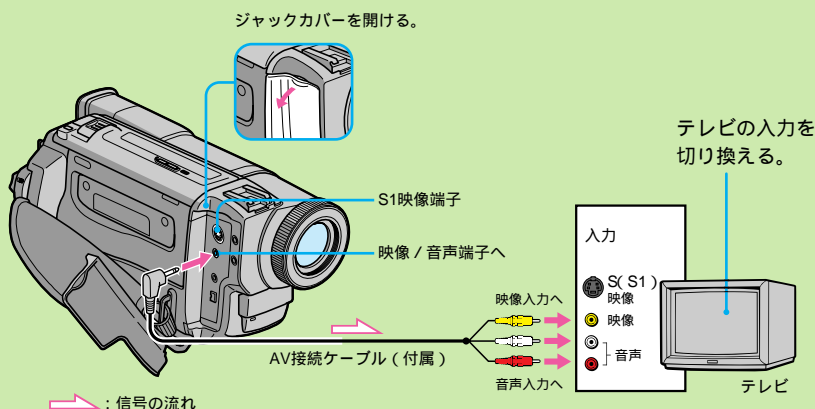
コマ送りで見る

［再生一時停止中］にリモコンの❚❚►ボタンを押す。
逆方向にコマ送りするときは、◄❚❚ボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

最後に撮影した部分を探す（エンドサーチ）

［停止中］にエンドサーチボタンを押す。
最後に撮影した終わりの部分を約5秒間再生して止まる。

テレビで見る

撮影したテープなどをテレビで見るときは、本機を付属のAV接続ケーブルでつなぎます。再生のしかたは液晶画面で見るときと同じです。
電源は付属のACパワーアダプターを使って、コンセントからとることをおすすめします（10ページ）。接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

別売りのS映像ケーブルを使うと
再生画像がより鮮明になります。テレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色い端子（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで、本機のS1映像端子とテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。

すでにテレビにビデオがつながっているとき

本機をビデオの外部入力端子につなぐ。

ビデオの入力切り換えスイッチは「外部入力（ライン）」にしてください。

音声入力端子がひとつ（モノラル）のテレビにつなぐとき

AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぐ。

音声は白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が聞こえます。
モノラル音声で聞くときは別売りの接続ケーブルをお使いください。

見る

SUPER LASER AVLINK
別売りのAVコードレスIRレシーバーIFT-R20との組み合わせで最大距離が従来比*約60%アップ、またノイズレベル約40%減を実現しています。
* LASER AVLINK搭載ビデオカメラとIFT-R10との組み合わせ時

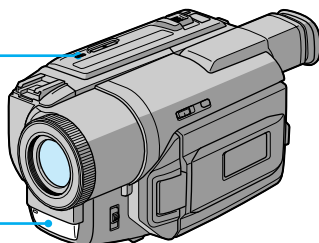
ソニー製のテレビの場合は

- 電源について
  本機のSUPER LASER AVLINKボタンを押すと、自動的にテレビの電源が入ります。あらかじめ下記の操作をしておいてください。
  – テレビの主電源を入れる。
  – 本機のメニューで「オートTVオン」を「入」にする。
  – 本機の赤外線発光部をテレビのリモコン受光部に向けておく。
- 入力について
  本機のメニューで「オートTVオン」を「入」に設定し、「TV入力切りかえ」をIRレシーバーをつないだテレビの入力端子（ビデオ1/2/3）と同じに設定すると、テレビの入力も自動的に切り換わります（テレビによっては、切り換わるときに一瞬画像や音声がとぎれることがあります）。
- 機種によっては操作できないことがあります。

電源スイッチを「切（充電）」にすると
自動的に解除されます。

SUPER LASER AVLINK**を使うと**
バッテリーの使用時間が短くなりますので、使わないときはSUPER LASER AVLINKを解除しておいてください。

ケーブルを使わずに見る ーSUPER LASER AVLINK

別売りのAVコードレスIRレシーバーをテレビにつないでおくと、ケーブルを接続しなくても本機で再生した画像をテレビで見られます。
詳しくはAVコードレスIRレシーバーの取扱説明書をご覧ください。

ACパワーアダプターなどの電源を付け、再生したいカセットを入れておいてください。

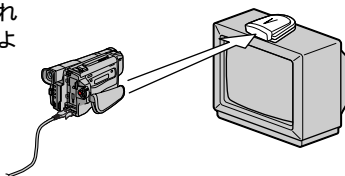
❶ テレビにIRレシーバーをつなぎ、IRレシーバーの電源を入れる。

❷ テレビの電源を入れ、テレビ／ビデオ切り換えスイッチを「ビデオ」にする。

❸ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❹ SUPER LASER AVLINKボタンを押す。
ボタンのランプが点灯する。

❺ 本機の►再生ボタンを押す。
再生が始まる。

❻ 本機とIRレシーバーの向きを合わせる。
再生中の画像がきれいにテレビに映るようにする。

SUPER LASER AVLINKを解除する

SUPER LASER AVLINKボタンを押して、ボタンのランプを消す。

SUPER LASER AVLINK はソニー（株）の商標です。

テープに静止画を撮る–テープフォト撮影

テープに静止画を記録できます。SPモードで60分記録できるテープなら、SPモードで約510枚、LPモードで約765枚撮れます。本機では“ メモリースティック ”にも静止画を記録することができます。（71ページ）

- 後からテレビやモニターで記念写真のように見たいとき
- ビデオプリンターでプリントしたいとき、など。

ご注意

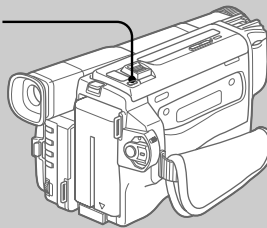
- テープフォト撮影中はモードや設定を変更することはできません。
- 以下の設定中や操作中は、テープフォト撮影ができません。
  - フェーダー
  - デジタルエフェクト
- 静止画を記録しているときは、本機を振らないでください。モザイク状のノイズが出ることがあります。

リモコンのフォトボタンで撮影すると

押したときに液晶画面またはファインダーに映っている画像が記録されます。

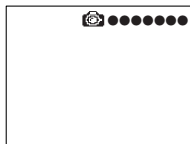
カメラ録画中にテープフォト撮影するときは

フォトボタンを軽く押して画像を確認することができません。フォトボタンを強く押し込んでください。約7秒間静止画を記録したあと、撮影スタンバイに戻ります。

7秒間テープフォト撮影をしている間は他の静止画を選べません。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
フォトボタンを軽く押したまま画像を確認する。

画像が静止画になり、キャプチャー表示が出る。
このとき録画はされません。

画像を選びなおすときはフォトボタンを離してからもう1度軽く押す。

❷ **フォトボタンを強く押し込む。**

録画中は1秒ごとに赤い丸が消えていく。

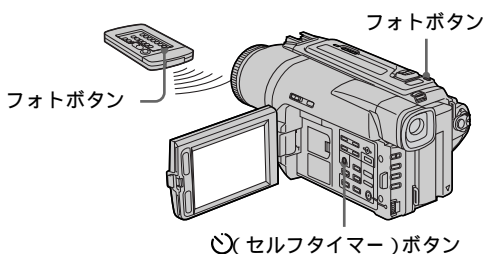
ボタンを押し込んだときの画像が約7秒間静止画で記録される。記録中の音声も同時に録音される。

記録中に液晶画面またはファインダーに映る画像は静止画となります。

ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- セルフタイマー撮影を実行したあと。
- 電源スイッチを「切（充電）」または「ビデオ」にしたとき。

セルフタイマーテープフォト撮影

セルフタイマーを使用して、テープに静止画を記録できます。
自分を撮影したいときなどに使用してください。
リモコンも使えます。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
(セルフタイマー) ボタンを押す。

セルフタイマー表示が出る。

❷ **フォトボタンを深く押す。**

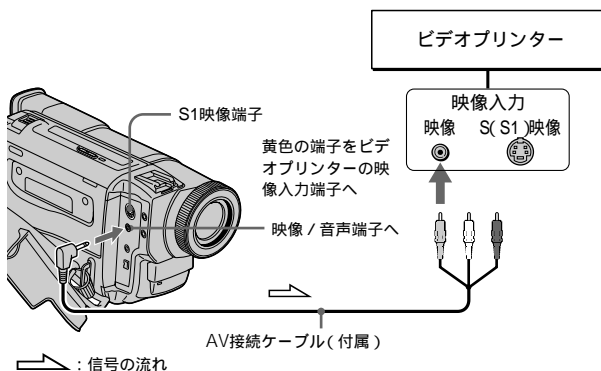
セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が早くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影される。

セルフタイマーを止めるとき

撮影スタンバイ中にもう1度(セルフタイマー) ボタンを押して、セルフタイマー表示を消す。
リモコンを使って撮影を中断することはできません。

ビデオプリンターにS（S1）映像入力端子がついているときは
別売りのS映像ケーブルでつなぐと、プリント画像がより鮮明になります。

静止画を別売りのビデオプリンターでプリントする

本機と別売りのビデオプリンターを使うとビデオプリンターに画像を取り込みプリントできます。

ビデオプリンターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

横長の画面にする–ワイドTVモード

ワイドテレビでご覧になるときに、画面いっぱいに映るように撮影できます。接続するテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

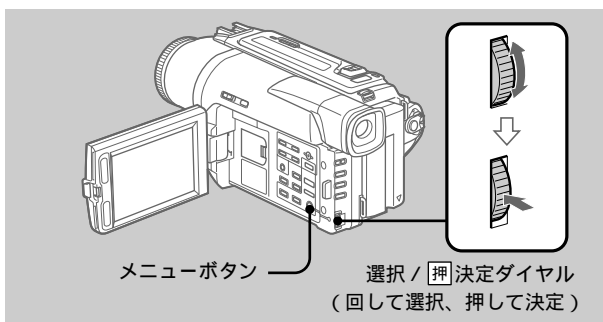
テレビをフルモードに
切り換える

画像が縦長になります。

ワイドTVモード中は
以下の操作はできません。
- オールドムービー
- バウンド

録画中は
ワイドTVモードを選んだり、解除したりできません。
ワイドTVモードを解除するときは、必ず撮影スタンバイにしてから、メニューで「ワイドTV」を「切」にしてください。

テレビの接続について
下記の接続のとき、ワイドTVモードで記録した画像を再生すると、画像は自動的にフルモードに切り換わります。
- ビデオIDシステム（ID-1/ID-2）方式対応のテレビと接続したとき。
- テレビのS（S1）映像入力端子に接続したとき。

ID-2方式とは
ID-1方式に加え著作権保護のための信号をアナログ接続において行うためのシステムです。

［撮影スタンバイ中］に
メニューで「ワイドTV」を「入」にする。
（57ページ）

ワイドTVモードを解除する

メニューで「ワイドTV」を「切」にする。

効果的な場面転換をする－フェーダー

余韻を残して場面を変えたり徐々に画像と音を出したり（フェードイン）、逆に徐々に消したり（フェードアウト）して効果的な場面転換を演出できます。

フェードイン

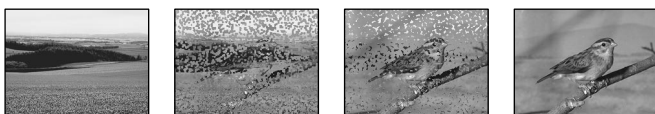
フェーダー

モザイクフェーダー

バウンド[1)][2)]

オーバーラップ[2)]

ワイプ[2)]

ドットフェーダー[2)]
（ランダムドット）

フェードアウト

モノトーンフェーダー　フェードインは白黒からカラーに、
フェードアウトはカラーから白黒になります。

1) メニューで「デジタルズーム」が「切」になっているときに使えます。
2) フェードインのみ

次のページへつづく

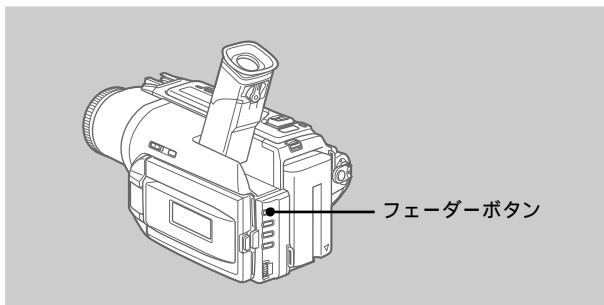
効果的な場面転換をする－フェーダー（つづき）

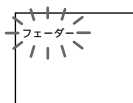
ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、オーバーラップ、ワイプ、ドットフェーダーはできません。
- フェード中には以下の操作ができません。また以下の操作中にはフェードイン・フェードアウトはできません。
  – デジタルエフェクト
  – プログラムAEのキャンドルモード（オーバーラップ、ワイプまたはドットフェーダーのみ）
  – SUPER NIGHTSHOT
  – テープフォト撮影

「オーバーラップ」、「ワイプ」または「ドットフェーダー」を選ぶと
本機が自動的に動作し、テープ上の画像を記憶します。記憶中は、表示が早い点滅になり、再生画が出ます。
このときテープの状態によっては、きれいな画像が取り込めないことがあります。

バウンド中には以下の操作ができません
- フォーカス
- ズーム
- ピクチャーエフェクト

以下の操作中にはバウンドが表示されません
- メニューの「デジタルズーム」で倍率を選択しているとき
- ワイドTVモード
- ピクチャーエフェクト
- プログラムAE

- フェードインは［撮影スタンバイ中］に
- フェードアウトは［撮影中］に

フェーダーボタンを押して希望のモードを選ぶ。

押すたびに変わります。
フェーダー→モザイクフェーダー→バウンド→モノトーンフェーダー→オーバーラップ→ワイプ→ドットフェーダー

表示は前回使ったモードから表示されます。

スタート／ストップボタンを押す。

フェーダーモード表示が点滅から点灯に変わり、フェード終了後に消える。フェードイン、フェードアウトはフェード終了後に自動的に解除される。

フェードイン・フェードアウトを解除する

スタート／ストップボタンを押す前に再度フェーダーボタンを押し、表示を消す。

画像に特殊効果を加える－ピクチャーエフェクト

画像にデジタル処理をして、テレビや映画のような特殊効果を加えられます。

ネガアート
→写真のネガフィルムのように

ソラリ
→明暗をはっきりさせたイラストのように

スリム
→縦に引き伸ばしたように

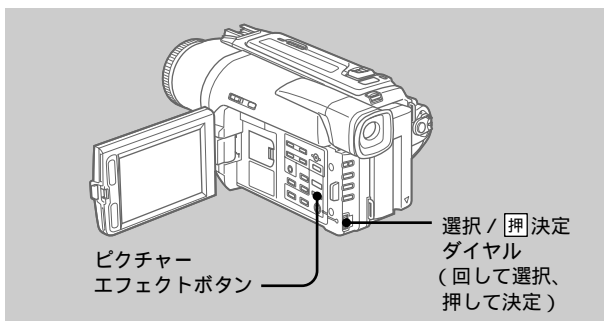
ストレッチ
→横に引き伸ばしたように

パステル
→淡い色のパステル画のように

モザイク
→タイルを組み合わせたように

セピア→古い写真のような色合いに　**モノトーン**→白黒に

ピクチャーエフェクト中は
オールドムービーは選べません。

電源スイッチを「切（充電）」にすると
ピクチャーエフェクトは自動的に解除されます。

❶ ［撮影スタンバイ中］または［撮影中］に
ピクチャーエフェクトボタンを押す。

ピクチャーエフェクト表示が出る。

❷ **選択／押決定ダイヤルを回して希望のモードを選ぶ。**

ネガアート

次の順で変わります。
ネガアート←→セピア←→モノトーン←→ソラリ←→スリム←→ストレッチ←→パステル←→モザイク

ピクチャーエフェクトを解除する

ピクチャーエフェクトボタンを押し、表示を消す。

使いこなす－撮影－

特殊な演出を加えて撮る－デジタルエフェクト

デジタル機能を使って撮影画像にさまざまな演出を加えることができます。音声はそのまま録音されます。

スチル
あらかじめ取り込んだ静止画に、動画を重ねて撮影する。

フラッシュ（フラッシュモーション）
コマ送り撮影をする。

ルミキー（ルミナンスキー）
あらかじめ取り込んだ静止画の明るい部分に、動画をはめ込む。

トレイル
被写体の動きが、尾を引くように撮影する。

スローシャッター
シャッタースピードを遅くする。暗いところで撮影しやすい。画像はザラつくこともあります。

オールドムービー
画面は横長、画像はセピア、シャッタースピードを遅くして、昔の映画のように撮影する。

（スチル）

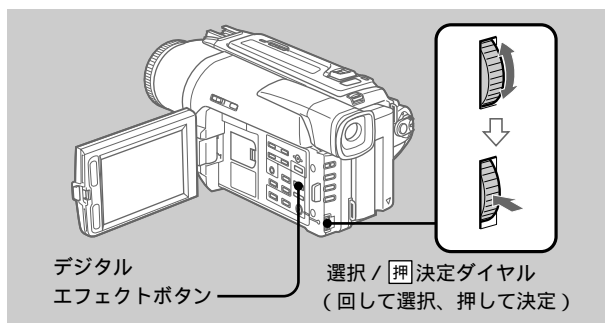
静止画　　動画

（ルミキー）

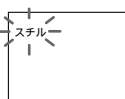
静止画　　動画

ご注意

- デジタルエフェクト操作中は以下の操作ができません。
  – フェーダー
  – プログラムAEのキャンドルモード
  – テープフォト撮影
  – SUPER NIGHTSHOT
- スローシャッターを選ぶと以下の操作ができません。
  – 明るさ調節
  – プログラムAE
- オールドムービーを選ぶと以下の操作ができません。
  – 明るさ調節
  – ワイドTVモード
  – ピクチャーエフェクト
  – プログラムAE

電源スイッチを「切（充電）」にすると
デジタルエフェクトは自動的に解除されます。

1 ［撮影スタンバイ中］または［撮影中］に**デジタルエフェクトボタンを押す。**

デジタルエフェクト表示が出る。

2 **選択／押 決定ダイヤルを回して希望のモードを選ぶ。**

次の順で変わります
スチル←→フラッシュ←→ルミキー←→トレイル←→スローシャッター←→オールドムービー

スローシャッターでは
自動でピントが合いにくくなることがあります。三脚などに固定して、手動でピントを合わせてください。

スローシャッターのシャッタースピードは

表示	シャッタースピード
スローシャッター1	1/30
スローシャッター2	1/15
スローシャッター3	1/8
スローシャッター4	1/4

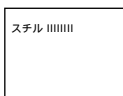
❸ 選択／押決定ダイヤルを押して決定する。

表示が点滅から点灯に変わり、バーが表示される。
スチルとルミキーでは、押したときの画像が静止画として記憶される。

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して、効果を調節する。

調節する内容は以下の通り。

スチル	撮影中の動画の背景にある静止画の映り具合。
フラッシュ	フラッシュの間隔。
ルミキー	静止画の、動画を取り込む部分の明るさの度合い。
トレイル	残像が残る時間。
スローシャッター	シャッタースピード。 数字を大きくするほど遅くなる。
オールドムービー	調節は必要ない。

スチル IIIIIIII

バー表示。大きくするほど効果が大きくなる。
次のデジタルエフェクトで表示される。
スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイル。

デジタルエフェクトを解除する

デジタルエフェクトボタンを押し、表示を消す。

撮影状況に合わせて撮る－プログラムAE

被写体や撮影状況により適した調節を自動的に行います。

スポットライトモード
結婚式や舞台など、強い光が当たっている被写体を撮影するときに人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぎます。

ソフトポートレートモード
人物、花などを撮影するときに背景をぼかして被写体を引き立てると同時に、ソフトな印象の映像になるようにします。

スポーツレッスンモード
ゴルフ、テニスなどの速い動きを撮影するときに被写体のぶれを少なくします。

ビーチ&スキーモード
真夏の砂浜や、冬山（スキー場）などの照り返しが強い場所で撮影するときに、人物の顔などが暗くなるのを防ぎます。

サンセット&ムーンモード
夕焼け、夜景、花火、ネオンサインを撮影するときに、雰囲気を損なわずに撮影することができます。

風景モード
山などの遠くの景色を撮影するときに景色をはっきりさせ、風景を窓ガラスや金網越しに撮影する場合、手前のガラスや金網にピントが合うのを防ぎます。

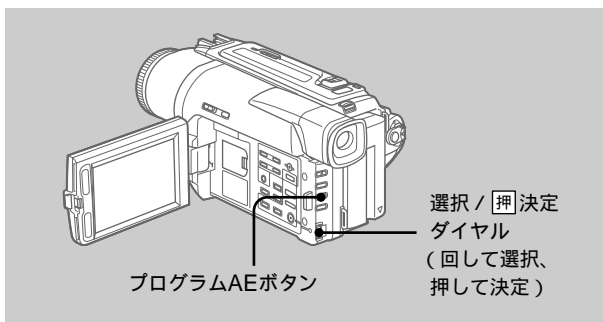
キャンドルモード
暗い場所でも、被写体を明るく撮影することができます。

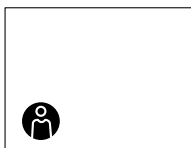
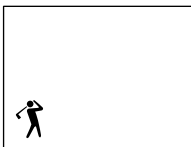
ご注意

- 次のモードでは近くのものにピントが合わないようにフォーカスを制御します。
  - ースポットライトモード
  - ースポーツレッスンモード
  - ービーチ＆スキーモード
- 次のモードでは遠景のみにピントが合うようにフォーカスを制御します。
  - ーサンセット＆ムーンモード
  - ー風景モード
- プログラムAE中は以下の操作ができません。
  - ースローシャッター
  - ーオールドムービー
  - ーバウンド
- キャンドルモード中は以下の操作ができません。
  - ーデジタルエフェクト
  - ーオーバーラップ
  - ーワイプ
  - ードットフェーダー
  - ー明るさ調節
- NIGHTSHOTスイッチを「入」にしているとき、プログラムAEモードは使えません。（表示が点滅します。）
- メモリーモード時、キャンドルモードは操作できません。

蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯など放電管による照明下で撮影すると

次のモードでは画面が明るくなったりする現象（フリッカー）が起こったり、色が変化することがあります。このような場合にはプログラムAEを解除してください。

– ソフトポートレートモード
– スポーツレッスンモード

1 ［撮影スタンバイ中］、［撮影中］または［メモリーモード中］に
プログラムAEボタンを押す。

プログラムAEモード表示が出る。

2 **選択／押 決定ダイヤルを回して希望のモードを選ぶ。**

次の順で変わります。
スポットライトモード←→ソフトポートレートモード←→スポーツレッスンモード←→ビーチ&スキーモード←→サンセット&ムーンモード←→風景モード←→キャンドルモード

プログラムAEを解除する

プログラムAEボタンを押し、表示を消す。

手動で画像の明るさを調節する

画像をお好みの明るさに手動調節し、固定することができます。

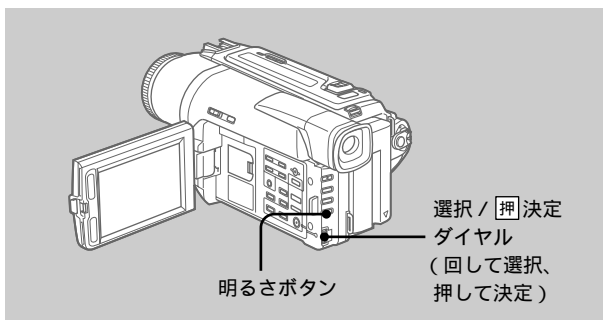
- 逆光補正を細かく行いたいとき。
- 背景に比べて、被写体が明るすぎるとき。
- 夜景を撮りたいとき。

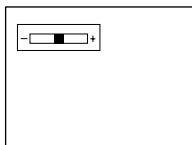
ご注意

明るさ調節しているときは以下の操作はできません。

- カメラモード時
  - ー逆光補正
  - ーオールドムービー
  - ースローシャッター
- メモリーモード時
  - ー逆光補正

以下のとき、明るさ調節は自動に戻ります

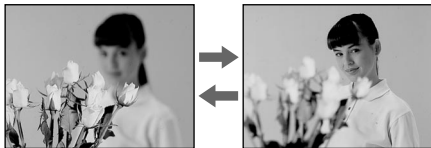
- プログラムAEのモードを変える。
- NIGHTSHOTスイッチを「入」にする。

❶ ［撮影スタンバイ中］、［撮影中］または［メモリーモード中］に
明るさボタンを押す。

明るさ表示が出る。

❷ **選択／押決定ダイヤルを回し、明るさを調節する。**

自動調節に戻す

明るさボタンを押し、表示を消す。

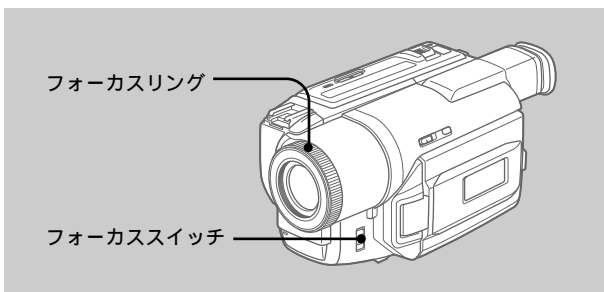
手動でピントを合わせる

撮影状況に応じて、手動でピント合わせができます。

- 自動ではピントが合いにくいとき。
  - 被写体が水滴のついた窓ごしにあるとき
  - 被写体が横縞だけのもののとき
  - 被写体と背景とのコントラストが弱いとき
- 手前の被写体から後方の被写体へと、意図的にピントの合う位置を変えるとき。
- 三脚を使い、静止した被写体をピントを固定して撮るとき。

正確にピントを合わせるには
ズームをT側（望遠）でピントを合わせたあと、なるべくW側（広角）で撮るようにズームを調節するとピントが合いやすくなります。

近づいて大きく撮るとき
ズームをW側（広角）いっぱいにしてピントを合わせます。

手動でピント合わせをするとき、☞が次のようなマークに変わります。

▲ 無限遠にあるとき。
👤 それ以上近くにピント合わせをすることができないとき。

1 ［撮影スタンバイ中］、［撮影中］または、［メモリーモード中］に
フォーカススイッチを「手動」にする。
手動ピント合わせ表示☞が出る。

2 **フォーカスリングを回し、ピントの合う位置を調節する。**

自動調節に戻す

フォーカススイッチを「自動」にする。

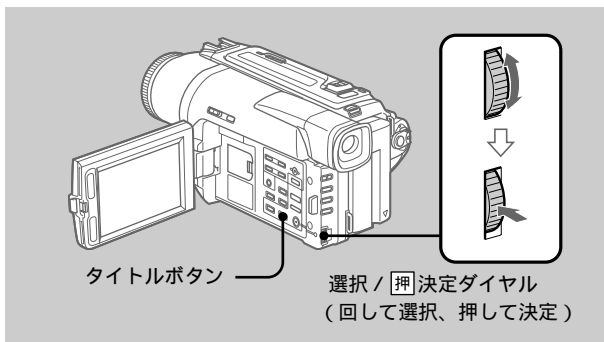
ピントを無限遠にして撮影する

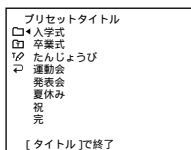
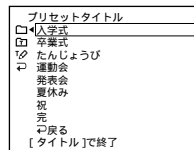
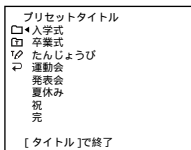
フォーカススイッチを「無限」に合わせる。ピントは無限遠になり、⊠の表示が出る。
指を離すとピント合わせが手動に戻る。
遠くの被写体を撮りたいのに、近くの被写体にピントが合ってしまうときに使います。

タイトルを入れる

本機にあらかじめ登録してある8種類のタイトルと、自分で作ったオリジナルタイトル2種類（40ページ）の中から選んで、タイトルを入れることができます。また、タイトルの色やサイズ、表示位置も選べます。

タイトルを入れて撮影中に
メニューボタンを押してメニュー画面を表示している間はタイトルが記録されません。

オリジナルタイトルを入れるときは
手順2で「⊡」を選びます。オリジナルタイトルが作成されていないと、タイトル表示欄に「– – –...」と表示されます。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
タイトルボタンを押す。

タイトルメニューが表示される。

❷ **選択／押 決定ダイヤルを回して「□」を選び、押して決定する。**

設定表示と表示順
「色設定」
しろ←→きいろ←→むらさき←→あか←→みずいろ←→みどり←→あお

「サイズ設定」
ちいさい←→おおきい
12文字をこえるタイトルには「おおきい」サイズの設定はできません。12文字をこえるとサイズ決定後、「ちいさい」サイズに戻ります。

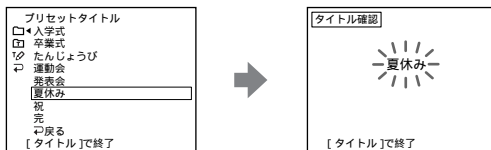
「位置設定」
1←→2←→3←→4←→5←→6←→7←→8←→9
大きい数字になるほど位置が下になります。
サイズ設定で「おおきい」を選んだときは、9の位置は選べません。

タイトルの選択／設定操作をしているときは
画面に出ているタイトルは記録できません。

撮影の途中でタイトルを入れるときは
おしらせブザーは鳴りません。

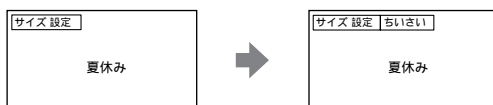
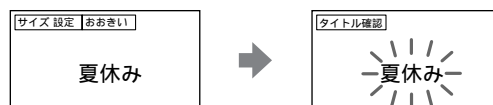
再生中に
タイトルを重ねることができます。ただし、テープには記録できません。
AV接続ケーブルをつないで他機へダビングするとタイトルも記録することができます。
i.LINKケーブルをつないでダビングする場合はタイトルは記録できません。

❸ 選択／押 決定ダイヤルを回して入れたいタイトルを選び、押して決定する。

タイトルが点滅する。

❹ 色、サイズ、位置を選択する。

表示されているタイトルの色、サイズ、位置でよいときは手順5にすすむ。

1 選択／押 決定ダイヤルを回して「色設定」または「サイズ設定」、「位置設定」を選び、押して決定する。

選べる項目が出る。

2 選択／押 決定ダイヤルを回して希望の項目を選び、押して決定する。

3 必要なだけ1、2を繰り返す。

❺ 選択／押 決定ダイヤルを押して、タイトルを表示させる。

❻ 撮影を始める。

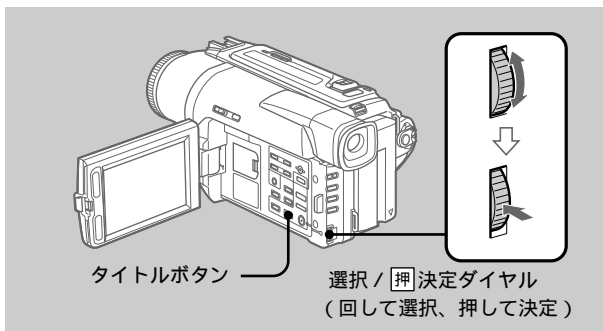
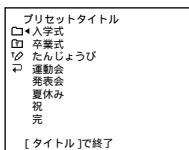
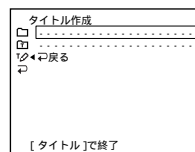
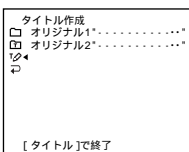
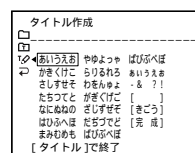
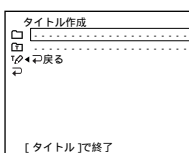
❼ タイトルを消したい場面でタイトルボタンをもう一度押す。

撮影の途中でタイトルを入れるとき

撮影中にタイトルボタンを押し、手順2から5を行う。手順5で選択／押 決定ダイヤルを押した時、タイトルが記録される。

オリジナルタイトルを作る

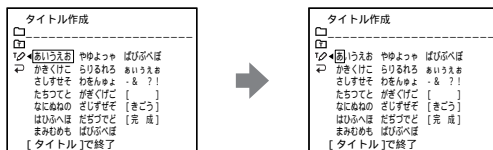
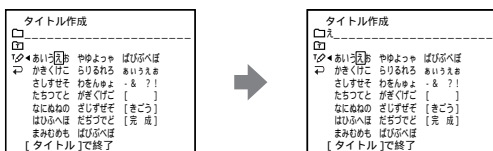
20文字以内のタイトルを自分で作って2種類
まで本機に記憶できます。

［撮影スタンバイ中］でタイトルを作成中に3分以上たつと自動的に電源が切れます。
作成中のタイトルは残っています。一度電源スイッチを「切（充電）」にして、手順1からやり直してください。
タイトルの作成に3分以上かかりそうなときは「ビデオ」にしておくかカセットを取り出しておけば電源は切れません。

❶ ［撮影スタンバイ中］または［ビデオ］のとき
タイトルボタンを押す。

❷ **選択／押決定ダイヤルを回して「T✎」を選び、押して決定する。**

❸ **選択／押決定ダイヤルを回して1行目または2行目の「–––…」を選び、押して決定する。**
1行目はオリジナル1。2行目はオリジナル2。

［きごう］を選ぶと
アルファベットや数字、漢字などが選べる画面が出ます。［かな］を選ぶと、元の画面に戻ります。

文字を消すとき
［←］を選びます。一番後ろの文字が消えます。

漢字変換機能は
ありません。［きごう］にある漢字以外をタイトルに使うことはできません。

空白を入れたいとき
［ー＆　？！］の文字列の空白部分を選んでください。

❹ 選択／押 決定ダイヤルを回して希望の文字列を選び、押して決定する。

❺ 選択／押 決定ダイヤルを回して希望の文字を選び、押して決定する。

❻ 手順4、5を繰り返して希望のタイトルを作る。

❼ 選択／押 決定ダイヤルを回して［完成］を選び、押して決定する。

タイトルが記憶される。

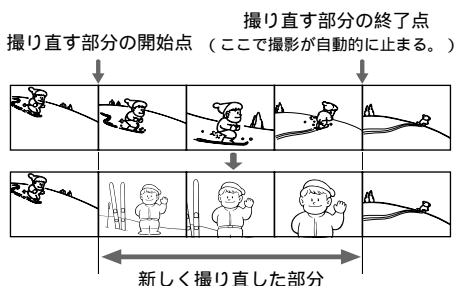
❽ タイトルボタンを押して、タイトル画面を消す。

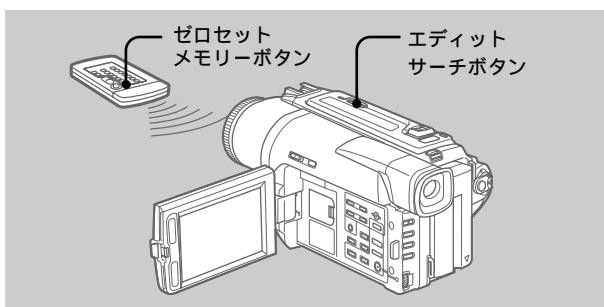
作成したタイトルを変更する

手順3で変更したいオリジナルタイトルを選び、押して決定する。
［←］を選び、ダイヤルを押して文字を消し、文字を選び直す。

一部分だけ撮り直す

撮影した画像の一部分だけをあとで撮り直すことができます。液晶画面を見ながら、撮り直したい部分の始めと終わりを決めて、その部分だけ新しく撮り直します。
リモコンも使います。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、ゼロセットメモリーはできません。
- 撮り直した部分の終了点で画像や音声が乱れることがあります。

テープの途中に記録されていない部分があると
ゼロセットメモリーが正しく働かない場合があります。

1 ［撮影スタンバイ中］に
エディットサーチボタンを押し続け、撮り直したい部分の終了点で離す。

2 **ゼロセットメモリーボタンを押す。**
「ゼロセットメモリー」が点滅し、テープカウンター値が「0：00：00」になる。

3 **エディットサーチのボタンを押し続け撮り直したい部分の開始点で離す。**

4 **撮影する。**
撮り直す部分に新しく録画される。
テープカウンター値が「0：00：00」の付近で自動的に撮影が止まり、撮影スタンバイになる。ゼロセットメモリーは解除される。

画像にピクチャーエフェクトを加えて見る

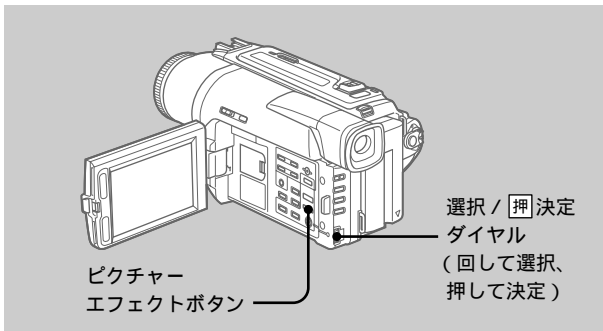
再生しているテープの画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることができます。

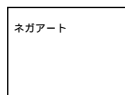
再生中は、ピクチャーエフェクトのうち、ネガアート、セピア、モノトーン、ソラリが使えます。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープに、ピクチャーエフェクトを加えて見ることはできません。
- 外部入力している画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることはできません。
- ピクチャーエフェクトを加えた画像を本機で録画することはできません。本機を再生機とし、他のビデオへ録画してください。

ピクチャーエフェクトを加えた画像は
i DV入力/出力端子からは出力されません。

電源スイッチを「切（充電）」にするか、再生を停止するとピクチャーエフェクトは自動的に解除されます。

［再生中］に

ピクチャーエフェクトボタンを押し、選択／押決定ダイヤルを回して希望のモードを選ぶ。

次の順で変わります。
ネガアート←→セピア←→モノトーン←→ソラリ

各ピクチャーエフェクトについて詳しくは31ページをご覧ください。

ピクチャーエフェクトを解除する

ピクチャーエフェクトボタンを押し、表示を消す。

使いこなすー再生

画像にデジタルエフェクトを加えて見る

再生しているテープの画像にデジタルエフェクトを加えて見ることができます。

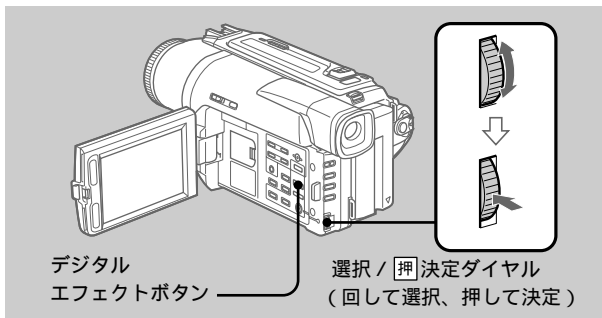
再生中は、デジタルエフェクトのうち、スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイルが使えます。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープに、デジタルエフェクトを加えて見ることはできません。
- 外部入力している画像にデジタルエフェクトを加えて見ることはできません。
- デジタルエフェクトを加えた画像を本機で録画することはできません。本機を再生機とし、他のビデオへ録画してください。

デジタルエフェクトを加えた画像は

i DV入力/出力端子からは出力されません。

電源スイッチを「切（充電）」にするか、再生を停止すると
デジタルエフェクトは自動的に解除されます。

1 ［再生中］に

デジタルエフェクトボタンを押し、選択／押決定ダイヤルを回して希望のモードを選ぶ。

次の順で変わります。
スチル←→フラッシュ←→ルミキー←→トレイル

2 選択／押決定ダイヤルを押して決定する。

表示が点滅から点灯に変わり、バーが表示される。

スチルとルミキーでは、押したときの画像が静止画として記憶される。

3 選択／押決定ダイヤルを回して、効果を調節する。

各デジタルエフェクトについて詳しくは32ページをご覧ください。

デジタルエフェクトを解除する

デジタルエフェクトボタンを押し、表示を消す。

撮影した画像を拡大する－再生ズーム

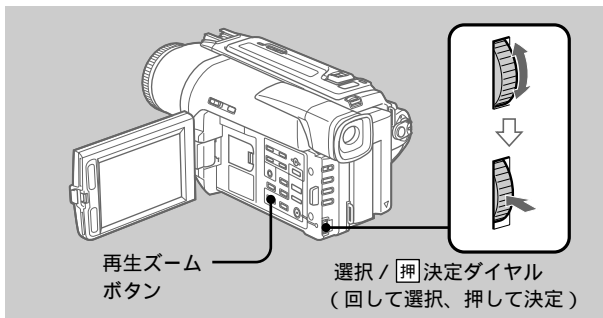
テープに記録した動画や静止画を拡大することができます。

本機では“メモリースティック”に記録された静止画も拡大することができます。
（87ページ）

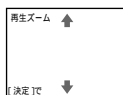
ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、再生ズームはできません。
- 外部入力している画像に再生ズームを加えて見ることはできません。
- 再生ズームを加えた画像を本機で録画することはできません。本機を再生機とし、他のビデオへ録画してください。

再生ズームを加えた画像は DV入力/出力端子からは出力されません。

電源スイッチを「切（充電）」にするか、再生を停止すると再生ズームは自動的に解除されます。

1 ［再生中］に
再生ズームボタンを押す。

画像の中心部が拡大され、↑↓が表示される。

2 選択／押 決定ダイヤルを回して拡大された画像を上下に動かし、押して決定する。

↑：画像が下に移動する。
↓：画像が上に移動する。

3 選択／押 決定ダイヤルを回して拡大された画像を左右に動かし、押して決定する。

←：画像が右に移動する。
（ダイヤルを下へ回す）
→：画像が左に移動する。
（ダイヤルを上へ回す）

再生ズームを解除する

再生ズームボタンを押し、表示を消す。

見たい場面にすばやく戻す－ゼロセットメモリー

テープカウンター値が「0：00：00」の地点まで巻き戻しや早送りをして、自動的に停止するようにできます。
リモコンでのみ操作できます。

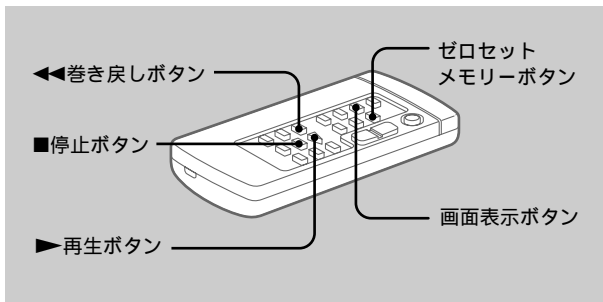
再生中に、後からもう一度見たいと思う場面があったときなど。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、ゼロセットメモリーはできません。
- 巻き戻す前にゼロセットメモリーボタンをもう１度押すと、ゼロセットメモリーが解除されます。
- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が出ることがあります。

テープの途中に記録されていない部分があると
ゼロセットメモリーが正しく働かない場合があります。

［撮影スタンバイ中］にも操作できます
ある部分だけ撮り直したいときに、撮り直したい部分の終了点でゼロセットメモリーボタンを押しておきます。
撮り直したい部分の開始点まで巻き戻して撮影を始めると終了点でテープが停止し、再び撮影スタンバイになります。

❶ ［再生中］に
画面表示ボタンを押す。

❷ **後から見たい場面でゼロセットメモリーボタンを押す。**
テープカウンター値が「0:00:00」になる。
ゼロセットメモリー表示が点滅する。

❸ **再生し終わったら■停止ボタンを押す。**

❹ **◀◀巻戻しボタンを押す。**
テープカウンター値が「0:00:00」の付近で自動的に停止する。テープカウンターがタイムコード表示に戻り、ゼロセットメモリー表示が消える。

❺ **►再生ボタンを押す。**
テープカウンター値「0:00:00」の場面からもう1度再生される。

撮影日の変わり目を探す－日付サーチ

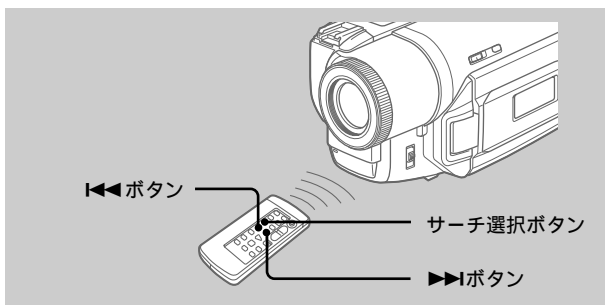
撮影した日付の変わり目を自動的に探し、そこから再生を始めることができます（日付サーチ）。

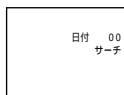
リモコンでのみ操作できます。

撮影日の変わり目を確認したり、撮影日ごとに編集するときなど。

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、日付サーチはできません。
- 日付の変更点の間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。

テープの途中に記録されていない部分があると
日付サーチが正しく働かないことがあります。

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **サーチ選択ボタンを押して、日付サーチを選ぶ。**

次の順で変わります。
日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン

❸ **⏮または⏭ボタンを押す。**

日付をさかのぼるときは、⏮ボタンを、日付を進めるときは、⏭ボタンを押す。日付の変わり目で自動的に再生が始まる。

ボタンを押した回数だけ前（⏮）または後ろ（⏭）の場面が頭出しされる。

サーチを止める

■ 停止ボタンを押す。

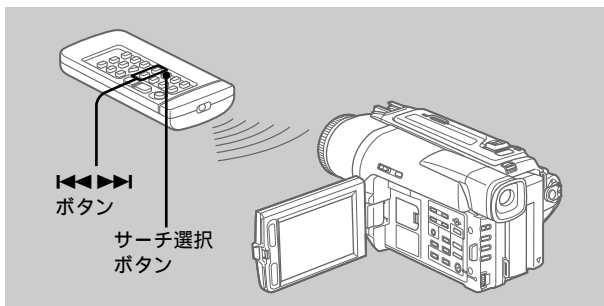
見たい静止画を探す－フォトサーチ／フォトスキャン

テープフォト撮影した静止画を頭出しできます（フォトサーチ）。
また、静止画を次々に探し、自動的に5秒ずつ再生することもできます（フォトスキャン）。
リモコンでのみ操作できます。

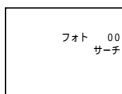
静止画の場面を確認したり、静止画をまとめて編集するときなど。

ご注意

Digital8方式以外で記録したテープでは、フォトサーチ／フォトスキャンはできません。

テープの途中に記録されていない部分があると
フォトサーチ／フォトスキャンが正しく働かないことがあります。

静止画を探す－フォトサーチ

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ サーチ選択ボタンを押して、フォトサーチを選ぶ。

次の順で変わります。
日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン

❸ ⏮ または⏭ボタンを押す。

静止画が再生される。

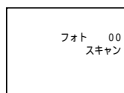
ボタンを押した回数だけ前（⏮）または後ろ（⏭）の静止画が再生される。

サーチを止める

■ 停止ボタンを押す。

静止画を次々に探すーフォトスキャン

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **サーチ選択ボタンを押して、フォトスキャンを選ぶ。**

次の順で変わります。
日付サーチ→フォトサーチ→フォトスキャン

❸ **I◀◀ または▶▶Iボタンを押す。**

静止画が約5秒ずつ再生される。

フォトスキャンを止める

■ 停止ボタンを押す。

他のビデオへダビングする

AV接続ケーブルでつなぐ

次のボタンを押して画面の表示を消してからダビングしてください。
- 画面表示ボタン
- データコードボタン
- サーチ選択ボタン（リモコン）

消さないでダビングするとテープに記録されます。

録画機は以下のどの方式のビデオでも使えます。
8, Hi8, VHS, VHS C, S VHS, S VHS C, β, ED Beta, Mini DV, DV, D8

録画機の音声入力がひとつ（モノラル）の場合
AV接続ケーブルの黄色のプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぎます。音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。

別売りのS映像ケーブルを使うと
録画画像がより鮮明になります。ビデオにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色端子（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで、本機のS1映像端子とビデオのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。

❶ カセットを準備する。

本機　：撮影ずみのカセットを入れる。

録画機：ダビングしたいカセットを入れる。

❷ 録画機の準備をする。

入力切り換えスイッチを外部入力（ライン）にする。
詳しくは録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❹ 本機で再生する。

❺ 録画機で録画をはじめる。

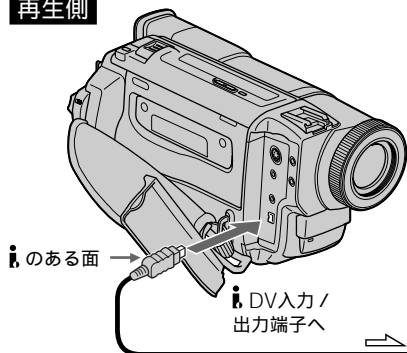
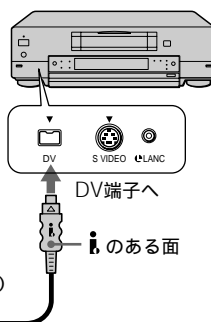
詳しくは録画機の取扱説明書をご覧ください。

ダビングが終わったら

録画機で録画を停止し、本機で再生を停止する。

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のi.LINKケーブル（DVケーブル）（別売り）でつなぎダビング編集ができます。

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。
画面表示はダビングできません。

Digital8方式以外で記録したテープでは
画像が乱れることがありますが、故障ではありません。

Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープを再生中は
DV出力端子からの映像信号はデジタル信号が出力されます。

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できるのは1台だけです。
i.LINKについて詳しくは、98ページをご覧ください。

デジタルダビング編集中は
ピクチャーエフェクトまたはデジタルエフェクトボタンは働きません。

再生一時停止にしている画像は
DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
また、他機で再生したとき画像がぶれることがあります。

❶ カセットを準備する。

本機　：撮影ずみのカセットを入れる。
録画機：ダビングしたいカセットを入れる。

❷ 録画機の準備をする。

入力切り換えスイッチがある場合は、「DV入力」にする。
詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

❸ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❹ 本機で再生する。

❺ 録画機で録画をはじめる。

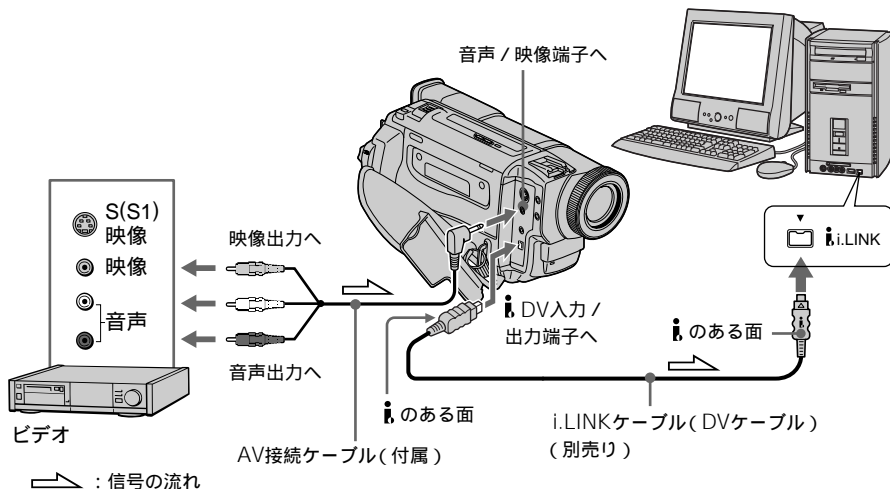
詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

ダビングが終わったら

録画機で録画を停止し、本機で再生を停止する。

アナログ機器とパソコンをつなげて使う
ーデジタル変換機能

アナログビデオ機器に録画した映像、音声を本機を通して、i.LINK端子を持つパソコンに接続して取り込めます。

アナログ信号→デジタル信号

ご注意

- ビデオ信号の取り込みができるソフトウェアがパソコン側にインストールされている必要があります。
- 本機に入力される映像信号の状態によっては、本機からのDV出力をパソコンに入力した場合、正しいアナログ映像を出力することができないことがあります。受信機によっては色消えやノイズがでることがあります。
- 著作権保護の為の信号（ID-2方式など）が記録されているソフトを再生して本機に入力し、本機から出力された信号を録画したり、パソコンで取り込むことはできません。

❶ **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **メニューで「A/V入力→DV出力」を「入」にする。（57ページ）**

❸ **アナログビデオ機器で再生を始める。**

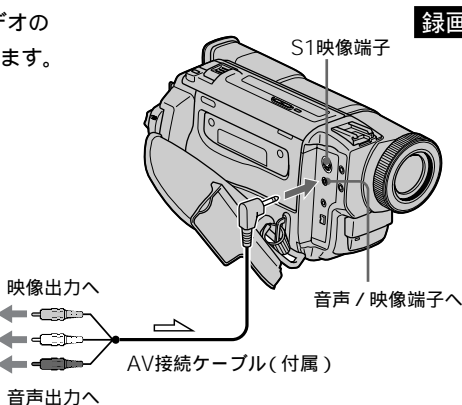
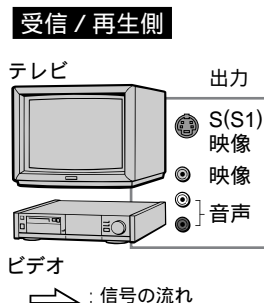
❹ **パソコンで取り込み動作を始める。**
取り込むための操作は、パソコンでお使いになるソフトウェアによって異なります。操作について詳しくは、ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

取り込みが終わったら

パソコンで取り込み動作を停止し、アナログビデオ機器で再生を停止する。

ビデオやテレビから録画する

AV接続ケーブルでつなぐ

本機を録画機として使い、他のビデオの画像やテレビ番組を録画・編集できます。

ご注意

- よりよいつなぎ撮りのために、Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録した画像と、Digital8方式で記録した画像をひとつのテープに混在させないことをおすすめします。
- 再生側のビデオで早送りやスロー再生などを行うと、本機で録画中の画像が乱れることがあります。テープを通常速度で再生してください。

ビデオやテレビの音声出力端子がひとつ（モノラル）の場合
AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像出力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぎます。音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。

別売りのS映像ケーブルを使うと
録画画像がより鮮明になります。ビデオやテレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色端子（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで本機のS1映像端子とビデオ、またはテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。

1 カセットを準備する。
本機：ダビングしたいカセットを入れる。
再生機：ビデオから録画するときは、録画ずみのカセットを入れる。

2 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

3 メニューで「画面表示」を「パネル」にする。（57ページ）

4 本機を録画一時停止にする。
●録画ボタンを2つ同時に押し、すぐにII一時停止ボタンを押す。

録画 ● → 一時停止 II

5 再生側のビデオを再生する。または、録画したいテレビ番組を受信する。
ビデオやテレビの画像が液晶画面またはファインダーに出る。

6 録画したい場面でII一時停止ボタンを押して録画を始める。

ダビングが終わったら

本機で録画を停止し、再生側のビデオで再生を停止する。

i.LINKケーブル（DVケーブル）でつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のi.LINKケーブル（DVケーブル）（別売り）でつなぎダビング編集ができます。

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できるのは1台だけです。

デジタルダビング編集中は
モニター映像に色ムラが出ることがありますが、ダビングされた画像には影響はありません。

再生一時停止にしている画像は
DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
また、本機で再生したとき画像がぶれることがあります。

録画を始める前に
画面表示ボタンを押して、液晶画面またはファインダーに「DV入力」の表示が出るのを確認してください。表示は両方の機器に出ることもあります。

❶ カセットを準備する。

本機　：ダビングしたいカセットを入れる。
再生機：録画ずみのカセットを入れる。

❷ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❸ メニューで「画面表示」を「パネル」にする。（57ページ）

❹ 本機を録画一時停止にする。

●録画ボタンを2つ同時に押し、すぐに❚❚一時停止ボタンを押す。

録画 ● → 一時停止 ❚❚

❺ 再生機で再生する。

ビデオやテレビの画像が液晶画面またはファインダーに出る。

❻ 録画したい場面で❚❚一時停止ボタンを押して録画を始める。

ダビングが終わったら
本機で録画を停止し、再生機で再生を停止する。

撮影したテープに新しく画像を挿入する

撮影、録画済みテープの指定した部分に、他のビデオからの映像・音声を挿入（インサート編集）できます。
リモコンも使います。

53または54ページの接続と準備をし、挿入したい部分の入ったテープを他機に入れておきます。

(a)
テープの走行方向
挿入したい部分

挿入したい部分の入ったテープ（他機）

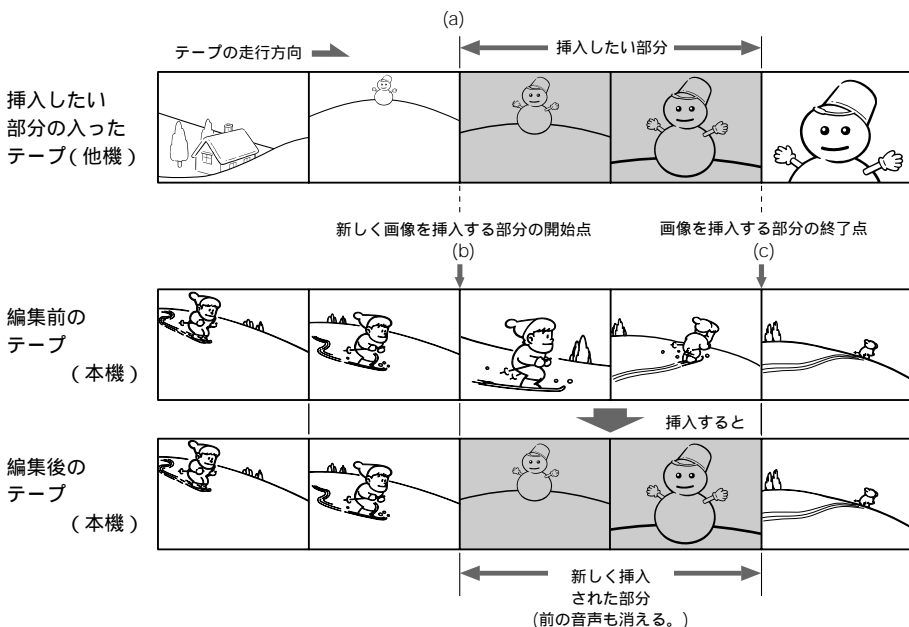
新しく画像を挿入する部分の開始点
(b)
画像を挿入する部分の終了点
(c)

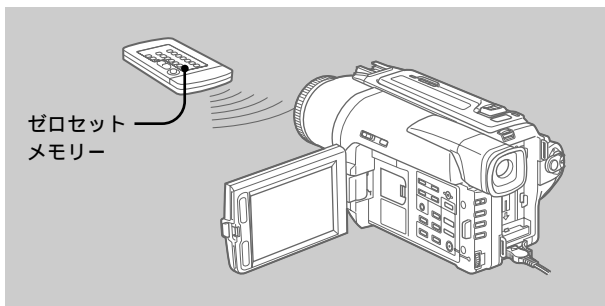
編集前のテープ（本機）

挿入すると

編集後のテープ（本機）

新しく挿入された部分
(前の音声も消える。)

ご注意

- Digital8方式以外で記録したテープでは、ゼロセットメモリーはできません。
- 新しく挿入された部分の編集前の映像と音声は消えます。

新しく挿入された部分を再生すると
終了点の画像や音声が乱れることがありますが、故障ではありません。

❶ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

編集する

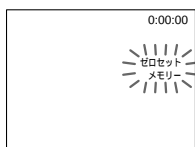
次のページへつづく

終了点を設定せずに録画するときは
手順3、4をとばします。
終了したいところで■停止ボタンを押します。

❷ **他機（再生側）で、挿入したい部分（a）の少し前で、再生一時停止状態にする。**

❸ **本機で、挿入部分の終了点（c）を探し、再生一時停止状態にする。**

❹ **リモコンのゼロセットメモリーボタンを押す。**

「ゼロセットメモリー」表示が点滅し、挿入部分の終了点が記憶され、テープカウンター値が「0:00:00」になる。

❺ **本機で、挿入部分の開始点（b）を探し、録画一時停止状態にする。**

●録画ボタンを2つ同時に押す。

❻ **他機（再生側）のII一時停止ボタンを先に押し、数秒後に本機のII一時停止ボタンを押す。**

本機の挿入部分に、新たに他機（再生側）の映像と音声が記録され始める。

テープカウンター値が「0:00:00」の付近で、本機は自動的に停止になり、ゼロセットメモリーが解除される。

終了点の位置を変える

手順5の後でゼロセットメモリーボタンをもう1度押し、「ゼロセットメモリー」表示を消して、手順3からやり直す。

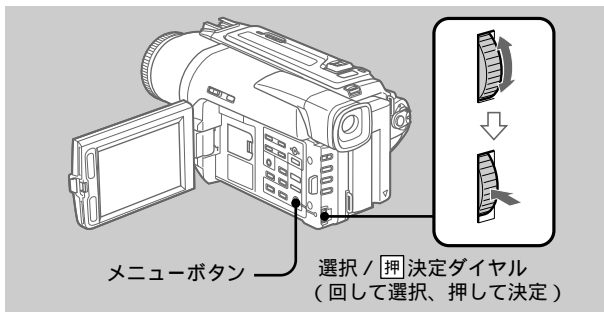
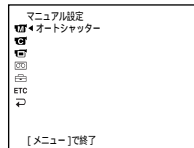
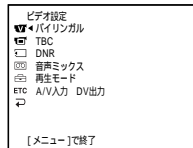
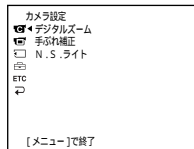
メニューで設定を変える

画面上のメニュー項目を、選択／押決定ダイヤルで選択し、本機のお買い上げ時の設定を一部変更することができます。

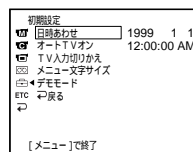
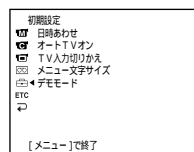
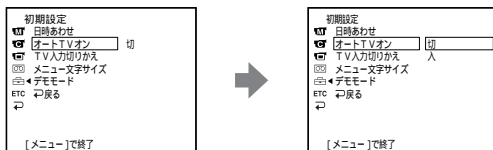
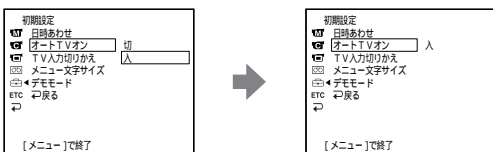
次の順で選択します。

メニュー画面→アイコン→項目→設定内容

メニュー項目は
以下のアイコン（絵文字）で区別されています。

- M マニュアル設定
- C カメラ設定
- V ビデオ設定
- パネル／VF設定
- メモリー設定
- テープ設定
- 初期設定
- ETC その他

❶ ［撮影スタンバイ中］、［ビデオ］または［メモリーモード中］に
メニューボタンを押す。

撮影スタンバイ中（「カメラ」）のとき

「ビデオ」のとき

「メモリー」のとき

❷ **選択／押決定ダイヤルを回して希望のアイコンを選び、押して決定する。**

次のページへつづく

❸ 選択／押決定ダイヤルを回して希望の項目を選び、押して決定する。

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して設定を切り換え、押して決定する。

❺ 必要なだけ手順2〜4を繰り返す。

手順2に戻るには、選択／押決定ダイヤルを回して「戻る」を選び、ダイヤルを押す。

詳しくは「各設定項目の説明」（59ページ）をご覧ください。

メニュー画面を消す

メニューボタンを押す。

各設定項目の説明　お買い上げ時は、下表の●印側に設定されています。

電源スイッチの位置によって、操作できる項目に違いがあります。本機の画面には、その時使える項目のみ表示されます。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
M オートシャッター	●入	明るいとき、自動的に電子シャッターが働く。	「カメラ」
	切	明るいときでも、自動的に電子シャッターが働かない。	
C デジタルズーム	●切	デジタルズームが働かない。25倍までのズームが働く。	「カメラ」「メモリー」
	50×	ズームが25倍を超えると50倍までデジタルズームが働く。（14ページ）	
	100×	ズームが25倍を超えると100倍までデジタルズームが働く。（14ページ）	
ワイドTV	●切	ワイド録画モードにしない。	「カメラ」
	入	ワイド録画モードにする。（28ページ）	
手ぶれ補正	●入	手ぶれ補正が働く。	「カメラ」「メモリー」
	切	手ぶれ補正が働かない。三脚を使用するときに自然な画像になる。	
N.S.ライト	●入	NIGHTSHOTライトを使用する。（17ページ）	「カメラ」「メモリー」
	切	NIGHTSHOTライトを使用しない。	

手ぶれ補正は

- 手ぶれ補正が「入」になっていても、手ぶれが大きすぎると、補正しきれないことがあります。
- コンバージョンレンズ（別売り）を取り付けると、手ぶれ補正が効きにくくなります。

手ぶれ補正を解除すると

本機を左右に動かしたときにその動きを補正しようとするなど、不必要な補正を防ぎます。このとき画面に手ぶれ補正「切」表示が出ます。

次のページへつづく

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
バイリンガル	●切	ステレオ音声または主＋副音声で再生する。（97ページ）	「ビデオ」
	メイン	左音声または主音声で再生する。	
	サブ	右音声または副音声で再生する。	
TBC*	●入	ジッター（再生時の画像の横ユレ）を低減する。	「ビデオ」
	切	画像の乱れ補正が働かない。（ダビング等を繰り返したり、ゲーム機の信号などを記録したテープを再生するとき）	
TBCとは Time（タイム） Base（ベース） Corrector（コレクター） の略です。			
DNR*	●入	画像の色ノイズを目立たなくする。	「ビデオ」
	切	動きの激しい画像のとき残像を目立たなくする。	
DNRとは Digital（デジタル） Noise（ノイズ） Reduction（リダクション） の略です。			
音声ミックス	—	音声モードST1↔ST2間のバランスを調節する。 ST1 ▲ ST2	「ビデオ」
再生モード	●オート	再生テープを自動判別（Hi8/スタンダード8ミリ方式またはDigital8方式）して、再生する。	「ビデオ」
	Hi8 / 8	自動判別できないHi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープを、再生する。	
A/V**入力** → DV**出力**	●切	本機を通してデジタル画像をアナログ出力する。	「ビデオ」
	入	本機を通してアナログ画像をデジタル出力する。（52ページ）	
パネルバックライト	●明るさノーマル	液晶画面の明るさを標準にする。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	明るい	液晶画面を明るくする。	
パネル色のこさ	—	液晶画面の色のこさを選択／押 決定ダイヤルを回して、バーで調節する。 うすくなる ▲ こくなる	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
VF**バックライト**	●明るさノーマル	ファインダーの明るさを標準にする。	「ビデオ」「カメラ」「メモリー」
	明るい	ファインダーを明るくする。	

* Hi8/スタンダード8ミリ方式での再生時のみ

音声ミックスは

- 16ビットモードで記録されたテープのバランスを調節することはできません。
- Digital8方式以外で記録したテープのバランスを調節することはできません。

再生モードは

- 次のときお買い上げ時の設定に戻ります。
  – 電源をはずしたとき
  – 電源スイッチを切り換えたとき

「パネルバックライト」または「VFバックライト」の「明るい」を選ぶと

- 撮影時のバッテリー使用時間が約１割短くなります。
- バッテリー以外の電源で使うときは自動的に「明るい」になります。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
連写	●切	連写しない。	「メモリー」
	マルチ画面連写	9連写する。（72ページ）	
画質	●ファイン（FINE）	“メモリースティック”を使い、高画質で静止画を記録する。（69ページ）	「ビデオ」「メモリー」
	スタンダード（STD）	“メモリースティック”を使い、標準の画質で静止画を記録する。（69ページ）	
フィールド／フレーム	●フィールド	動きのある被写体をブレを低減して記録する。	「メモリー」
	フレーム	止まっている被写体を高画質で記録する。	
プリントマーク	●切	静止画のプリントマークを解除する。	「ビデオ」「メモリー」
	入	プリントしたい静止画にプリントマークをつける。	
プロテクト	●切	静止画の誤消去防止指定を解除する。	「ビデオ」「メモリー」
	入	静止画を誤消去しないようにする。（90ページ）	
スライドショー	—	スライドショーをする。（88ページ）	「メモリー」
全消去	—	プロテクトのかかっていないすべての静止画を消去する。（92ページ）	「ビデオ」「メモリー」
フォーマット	●戻る	フォーマットを中止する。	「ビデオ」「メモリー」
	フォーマット	本機に入れた“メモリースティック”をフォーマット（初期化）する。 1「フォーマット」の項目を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。 2 選択／押決定ダイヤルを回し、「フォーマット」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。 3 画面に「フォーマットします」と表示されたら、選択／押決定ダイヤルを押す。「フォーマット中」と表示される。「完了」と表示されると終了。	
オートフォトコピー	—	静止画をコピーする。（80ページ）	「ビデオ」

フォーマットについて

- 付属または市販の“メモリースティック”はお買い上げ時にフォーマット（初期化）済みです。あらためてフォーマット（初期化）する必要はありません。
- 「フォーマット中」と表示されている間は電源スイッチを切り換えたりボタン操作をしないでください。
- “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると、フォーマット（初期化）できません。
- フォーマット（初期化）したあとに「メモリースティックを確認してください」と表示されたら、もう1度フォーマット（初期化）してください。

フォーマット（初期化）すると“メモリースティック”の記録内容は消去されます

以下の点にご注意ください。

- 付属の“メモリースティック”にあらかじめ記録してあるサンプル画像は消去されます。
- 画像にプロテクトをかけていても消去されます。

次のページへつづく

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
録画モード	●SP	SP（標準）モードで録画する。	「ビデオ」「カメラ」
	LP	SPモードの1.5倍の録画時間で録画する。長時間録画できる。	
音声モード	●12BIT	12ビットモード（2つのステレオ音声）の記録、再生ができる。	「ビデオ」*「カメラ」
	16BIT	16ビットモード（高音質で1つのステレオ音声）の記録、再生ができる。	
テープ残量表示	●オート	以下のときにテープ残量を表示する。 • 電源／テープを入れた後、テープ残量が確定してから8秒間。 • ►再生ボタンまたは画面表示ボタンを押してから8秒間。 • 早送り、巻き戻し、ピクチャーサーチ中。	「ビデオ」「カメラ」
	入	テープ残量を常に表示する。	
データコード	●日付／カメラデータ	データコードボタンを押したとき、日付・時刻とカメラデータを表示する。	「ビデオ」
	日付データ	データコードボタンを押したとき、日付・時刻を表示する。	

LPモードについて
- LPモードでは本機で記録したテープを本機で再生することをおすすめします。他機で記録したテープを本機で再生すると、モザイク状のノイズが現れることがあります。
- テープの途中でSP／LPモードを切り換えると、再生画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。

スタンダード8 8 テープをお使いの場合
「録画モード」で「LP」を選んでも「SP」モードで録画されます。このとき、「Hi8テープでなければLP録画できません SP録画になります」と液晶画面またはファインダーに表示されます。「LP」モードのときはHi8テープをお使いください。

音声モードが16ビットで記録されたテープでは
音声ミックスのバランスを調節することができません。

* **他のビデオへダビングするとき**
Digital8方式で記録されたテープでは音声モードは選べませんが、Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープをi.LINKケーブルで出力するときは、音声モードを選ぶことができます。

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
日時あわせ	ー	日付・時刻を合わせ直す。（65ページ）	「カメラ」 「メモリー」
オートTVオン	●切	ー	「ビデオ」 「カメラ」 「メモリー」
	入	SUPER LASER AVLINK機能を使うとき、自動的にソニー製テレビの電源を入れる。（24ページ）	
TV入力切りかえ	●ビデオ1 ビデオ2 ビデオ3	SUPER LASER AVLINK機能を使うとき、自動的にソニー製テレビの入力を切りかえる。（24ページ）	「ビデオ」 「カメラ」 「メモリー」
	切	ー	
メニュー文字サイズ	●ノーマル	通常の大きさでメニュー表示をする。	「ビデオ」 「カメラ」 「メモリー」
	2×	選択されたメニュー項目を縦2倍角で表示する。	
デモモード	●入	本機の機能を一覧できる。	「カメラ」
	切	デモンストレーションを表示しない。	

デモモードについて

- カセットが入った状態では操作できません。
- お買い上げ時は「スタンバイ」という設定になっています。これは10分後にデモンストレーションが始まる設定です。カセットを入れるか、電源スイッチを「カメラ」以外にするか、メニューで「切」にすれば解除されます。
再び「スタンバイ」にするにはメニューで「入」にしたまま電源スイッチをいったん「切（充電）」にし、「カメラ」に戻します。
- NIGHTSHOTスイッチを「入」にしていると、「“ NIGHTSHOT ”」が表示され、デモンストレーションは始まりません。また、メニューで「デモモード」を選ぶことはできません。

次のページへつづく

アイコン／項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
ETC **時差補正**	ー	時差の設定をする。 選択／押 決定ダイヤルを回して時差を設定すると、時刻も時差に合わせて変わる。時差を0に設定すると、補正前の時間に戻る。	「カメラ」 「メモリー」
おしらせブザー	●メロディー	撮影スタート／ストップ時や、誤った操作をしたときにメロディーが鳴る。	「ビデオ」 「カメラ」 「メモリー」
	ノーマル	メロディーのかわりにブザーが鳴る。	
	切	メロディー、ブザー、シャッター音が鳴らない。	
リモコン	●入	付属のワイヤレスリモコンが働く。	「ビデオ」 「カメラ」 「メモリー」
	切	リモコンが働かない。他機のリモコンによる誤動作を防ぐ。	
画面表示	●パネル	カウンターなどの画面表示を液晶画面またはファインダーに出す。	「ビデオ」 「カメラ」 「メモリー」
	ビデオ出力／パネル	テレビ画面にも画面表示を出す。	
録画ランプ	●入	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯する。	「カメラ」 「メモリー」
	切	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯しなくなる。被写体に撮影していることを意識させずに撮影できる。	
インジケーター	●バックライト切	表示窓のバックライトを消す。	「ビデオ」 「カメラ」 「メモリー」
	バックライト入	表示窓のバックライトをつける。	

ご注意

「画面表示」が「ビデオ出力／パネル」のとき画面表示ボタンを押すと、外部入力ができなくなります。（i.LINKケーブル（DVケーブル）でつないだときを除く）

電源をはずして5分以上たつと
「リモコン」、「バイリンガル」、「音声ミックス」はお買い上げ時の設定に戻ります。
その他のメニュー項目は、ボタン型リチウム電池が入っていれば、電源をはずしても設定を保持します。

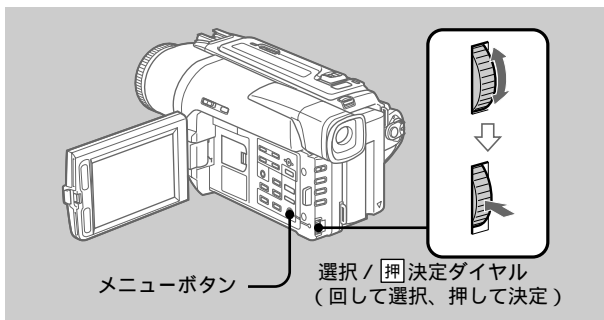
インジケーターについて
- 「バックライト入」を選ぶと撮影時のバッテリー使用時間が約１割短くなります。
- バッテリー以外の電源で使うときは「インジケーター」は自動的に「バックライト入」になります。

日付・時刻を合わせ直す

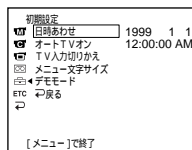
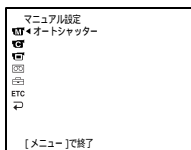
お買い上げ時には、あらかじめ日付・時刻は設定されています。

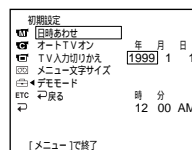
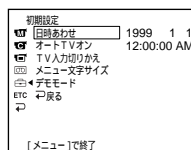
ボタン型リチウム電池を交換するときにも、電源を取り付けたまま行えば、日付・時刻を合わせ直す必要はありません。

電源を取り付けていないときにボタン型リチウム電池が消耗したとき。

日時を設定しないと
テープと“ メモリースティック ”のデータコードには
「－－－－ －－ －－」
「－－:－－:－－」が記録されます。

年→月→日→時→分の順で合わせます。

❶ ［撮影スタンバイ中］に
メニューボタンを押す。

❷ **選択／[押]決定ダイヤルを回して「 」を選び、押して決定する。**

❸ **選択／[押]決定ダイヤルを回して「日時あわせ」を選び、押して決定する。**

次のページへつづく

真夜中、正午は
真夜中は12:00:00AM、正午は12:00:00PMと表示します。

❹「年」を合わせる。

選択／押決定ダイヤルを回して「年」を合わせ、押して決定する。

年表示は次のように変わる。

❺手順4と同様に「月」、「日」、「時」を合わせる。

❻「分」と「秒」を合わせる。

選択／押決定ダイヤルを回して「分」を合わせて時報と同時に押して決定する。時計が動き始める。

❼メニューボタンを押す。

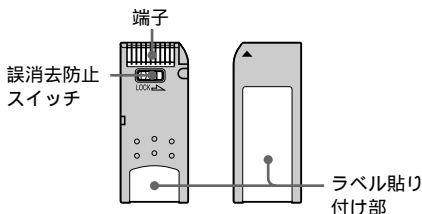
メニュー画面が消える。

“メモリースティック”を使う－はじめに

付属の“メモリースティック”は、静止画を記録し、見たい画像を簡単に再生するほか、以下のようなことができます。
－画像をテープから“メモリースティック”、“メモリースティック”からテープへ取りこむ。
－別売のパソコン接続キットや“メモリースティック”用PCカードアダプターなどを使用し、パソコンに画像データを取りこむ。
－画像の消去、プロテクト、プリントマーク操作。

画像の圧縮形式（JPEG）
本機は、撮影した画像データをJPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮／記録しています。ファイル拡張子は「. jpg」です。

画像のデータファイル名
100-0001：本機の液晶画面およびファインダーに表示されます。
Dsc00001.jpg：パソコンに取り込んだときのパソコン画面に表示されます。

“メモリースティック”について

- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録、消去などができなくなります。
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。

－読み込み中、書き込み中に“メモリースティック”を抜いたり、本機の電源を切った場合
－静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合

- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- ラベルの貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  －高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  －直射日光のあたる場所
  －湿気の多い場所や腐食性のある場所
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。

パソコンでフォーマット（初期化）した“メモリースティック”は

パソコン（Windows OS/Macintosh OS）でフォーマットした“メモリースティック”は、本機での動作を保証致しません。

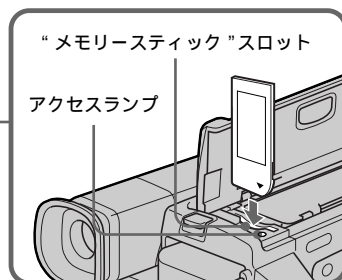
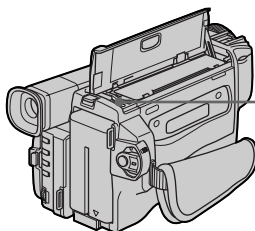
画像の互換性について

- 本機で“メモリースティック”に記録された静止画像ファイルは、日本電子工業振興会にて制定された統一規格“Design rules for Camera File systems”に対応しています。
  統一規格に対応していない機器（DCR-TRV900、DSC-D700／D770）で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 他機で使用した“メモリースティック”が本機で使用できないときは、61ページの手順にしたがい本機でフォーマット（初期化）してください。フォーマットすると“メモリースティック”に記録してあるデータはすべて消去されますのでご注意ください。

- “Memory Stick”（“メモリースティック”）及び MEMORY STICK はソニー株式会社の商標です。

- PC/ATは、米国International Business Machines Corporationの登録商標です。
- Macintoshは、Apple Computer Inc. の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文では™、®マークは明記していません。

アクセスランプ点灯中および点滅中は
本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“ メモリースティック ”やバッテリーを取り出したりしないでください。画像データが壊れることがあります。

“ メモリースティック ”を入れる

❶ **カセットぶたを開ける。**

❷ **“ メモリースティック ”を上の図のように▲マークを下にしてカチッと音がするまで差し込む。**

❸ **カセットぶたを閉める。**

“ メモリースティック ”を取り出す

カセットぶたを開け、“ メモリースティック ”を軽く一回押して取り出す。

ご注意

画像によっては、画質モードを変えても、画質に差がないことがあります。

画質モードの違いは

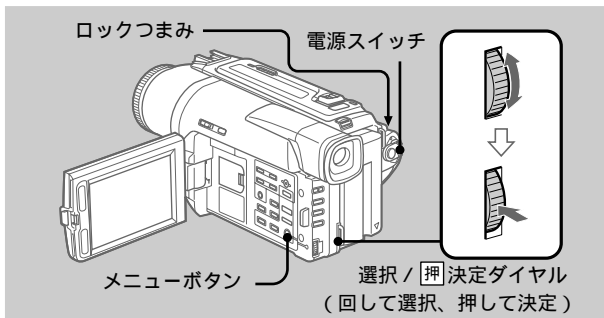
画像はJPEG方式で圧縮処理をしてから記録されます。記録されるときに割り当てられるメモリー容量は画質モードにより次のようになります。（画素数は、画質モードに関係なく640×480で、圧縮前のデータ量は約600Kバイトです。）

画質モード	メモリー容量
ファインモード	約100Kバイト
スタンダードモード	約60Kバイト

画質モードは

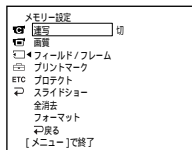
再生時は表示されません。

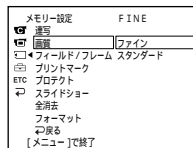
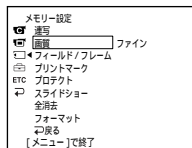
画質モードを選ぶ

あらかじめ記録時の画質を選んで記録できます。お買い上げ時は「ファイン」に設定されています。

❶ 電源スイッチを「ビデオ」または「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❸ 選択／押決定ダイヤルを回して「▭」を選び、押して決定する。

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して「画質」を選び、押して決定する。

次のページへつづく

1枚の“ メモリースティック ”に記録できる枚数の目安
画質モードの設定および被写体の状況で撮影枚数が異なります。

4Mバイトタイプ （付属）	
ファイン	約40枚
スタンダード	約60枚

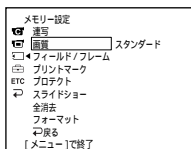
8Mバイトタイプ（別売り）	
ファイン	約81枚
スタンダード	約122枚

16Mバイトタイプ（別売り）	
ファイン	約164枚
スタンダード	約246枚

32Mバイトタイプ（別売り）	
ファイン	約329枚
スタンダード	約494枚

64Mバイトタイプ（別売り）	
ファイン	約659枚
スタンダード	約988枚

❺ 選択／押 決定ダイヤルを回して画質モードを選び、押して決定する。

メモリー設定
連写
画質 スタンダード
フィールド／フレーム
プリントマーク
プロテクト
スライドショー
全消去
フォーマット
戻る
[メニュー] で終了

画質の設定について

設定	意味
ファイン 表示：FINE	画質を優先するときに使います。約1／6に圧縮されます。
スタンダード 表示：STD	標準の画質です。約1／10に圧縮されます。

❻ メニューボタンを押してメニュー画面を消す。

“ メモリースティック ”に静止画を撮る−メモリーフォト撮影

静止画をフィールドまたはフレームで“ メモリースティック ”に記録することができます。

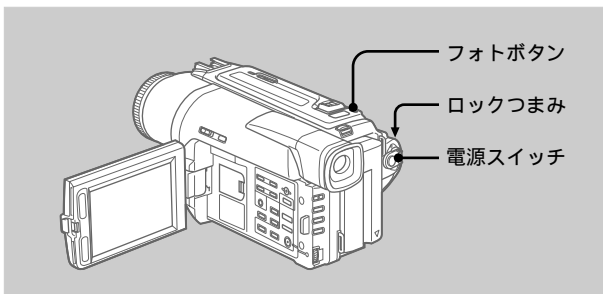
フィールドは動きのある被写体をブレを低減して記録することができます。
フレームは、止まっている被写体を高画質で記録することができます。
メニューで選択します。（57ページ）

ご注意

- フレームモードで動きの速い被写体を撮影すると、画像はブレて記録されます。
- フレーム撮影中は、手ぶれにご注意ください。三脚などに固定して撮影することをおすすめします。
- 手順2でフォトボタンを軽く押すと、画像が瞬間的にまたたきますが、異常ではありません。
- オートフォーカスで撮影するときは、あらかじめフォーカスが合っていることを確認してください。

電源スイッチを「メモリー」にすると
以下の機能が使えません。
- ワイドTV
- デジタルエフェクト
- ピクチャーエフェクト
- タイトル
- プログラムAEのキャンドルモード

静止画を記録中は
電源を切ったりフォトボタンを押したりすることはできません。

リモコンのフォトボタンを押すと
押したときに映っている画像が記録されます。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ フォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。

画像の明るさとフォーカスが固定され、撮影が可能になる。撮影するとき、明るさとフォーカスは画面の中央部分の被写体に合わせて調整されます。

緑の●が点滅から点灯に変わり、撮影可能となる。

❸ フォトボタンを強く押し込む。

バーのスクロール表示が終わると、記録が完了する。

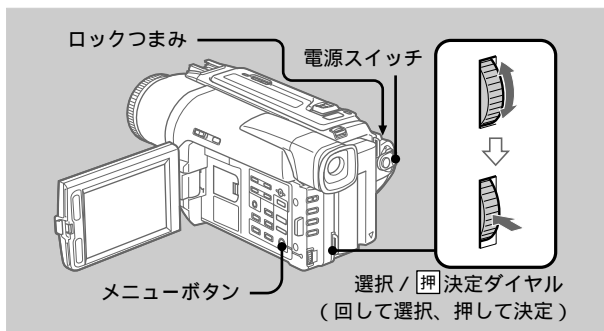
ボタンを押し込んだときの画像が“ メモリースティック ”に記録される。

ビデオフラッシュライト（別売り）は
本機のアクセサリーシューから電源を供給してご使用中は、マルチ画面連写をしても発光しません。

マルチ画面連写のときは
画質モードで「フレーム」を選んでいても、自動的に「フィールド」になります。

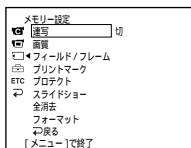
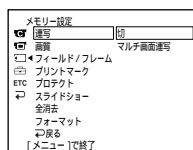
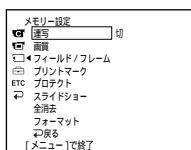
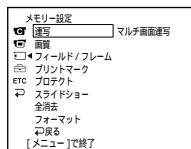
連続して撮る（連写）

あらかじめ下記の設定をしてメモリーフォト撮影をすると、連続して静止画を撮影することができます。

マルチ画面連写
9枚の静止画を連続撮影して9分割の画面に表示する。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❸ 選択／押 決定ダイヤルを回して「 」を選び、押して決定する。

❹ 選択／押 決定ダイヤルを回して「連写」を選び、押して決定する。

❺ 選択／押 決定ダイヤルを回して「マルチ画面連写」を選び、押して決定する。

❻ メニューボタンを押してメニュー画面を消す。

“ メモリースティック ”の容量がいっぱいになると

「メモリースティックのメモリーがいっぱいです」と表示され、メモリーフォト撮影は終了します。

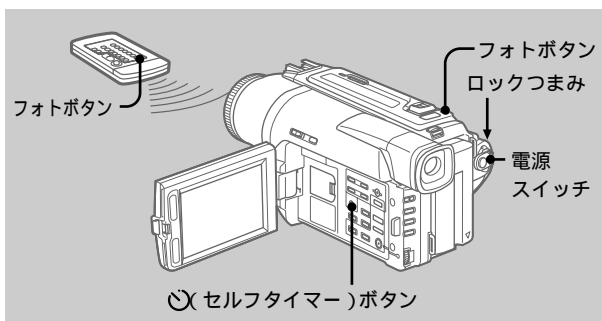
連写の設定について

設定	意味（画面に出る表示）
切	連続して撮影しません。
マルチ画面連写	約0.5秒間隔で9枚の静止画を連続して撮影し、9分割された1つの画面に表示します。（ ）

ご注意

次の場合、セルフタイマーは自動的に解除されます。
- セルフタイマー撮影を実行したあと。
- 電源スイッチを「切（充電）」または「ビデオ」にしたとき。

セルフタイマーメモリーフォト撮影

セルフタイマーを使って“ メモリースティック ”に静止画を記録できます。自分を撮影したいときなどに使用してください。リモコンも使えます。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ （セルフタイマー）ボタンを押す。

セルフタイマー表示が出る。

❸ フォトボタンを深く押す。

セルフタイマーの秒読みが始まる。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が早くなる。ボタンを押してから10秒後に、自動的に撮影される。

セルフタイマーを止めるとき

撮影スタンバイ中にもう1度（セルフタイマー）ボタンを押して、セルフタイマー表示を消す。
リモコンを使って撮影を中断することはできません。

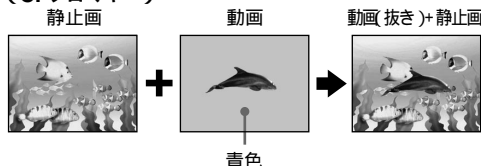
静止画を重ねて撮る－メモリーミックス

“ メモリースティック ”に記録してある静止画を、カメラで撮影している動画に重ねることができます。

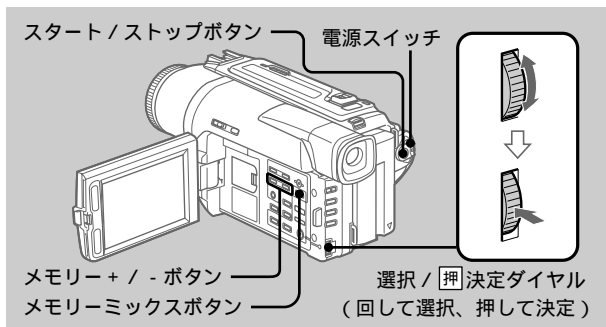
M. クロマキー（メモリークロマキー）
イラストや枠などの静止画を使い、静止画の青色の部分を抜いて動画と重ねる。

M. ルミキー（メモリールミキー）
手書きイラストやタイトルなどの静止画を使い、静止画の明るい部分を抜いて動画に重ねる。旅行やイベントの前にあらかじめタイトルを“ メモリースティック ”に入れておくと便利です。

C. クロマキー（カメラクロマキー）
背景などの静止画に動きのある被写体を重ねる。(青色を背景に被写体を撮影し、青色の部分を抜く。）

M. オーバーラップ
（メモリーオーバーラップ）
動画を静止画の上に徐々に重ねて、フェードインさせる。

撮影中は
モードを選び直すことはできません。

付属の“ メモリースティック ”には
サンプルとして20枚の画像が記録されています。
- M. クロマキー用18枚
  （枠など）
  100-0001~100-0018
- C. クロマキー用2枚
  （背景になる絵など）
  100-0019~100-0020

サンプル用画像は
プロテクトされています。
（90ページ）

“メモリースティック” を使う

次のページへつづく

• 記録用のテープを入れておいてください。

• あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ **電源スイッチを「カメラ」にする。**

❷ ［撮影スタンバイ中］に
メモリーミックスボタンを押す。

最後に“ メモリースティック ”に記録した静止画が画面の右下の小画面に出る。

❸ **メモリー ＋／－ボタンを押して、重ねたい静止画を選ぶ。**

前の画像を出すときは、メモリー －ボタンを押す。
次の画像を出すときは、メモリー ＋ボタンを押す。

❹ **選択／押 決定ダイヤルを回して希望のモードを選ぶ。**

次の順で変わります
M. クロマキー↔M. ルミキー
↔C. クロマキー↔
M. オーバーラップ

❺ **選択／押 決定ダイヤルを押す。**

静止画が動画と重なる。

M. **オーバーラップを選ぶと**
静止画やモードを選び直すことはできません。

❻ 選択／[押]決定ダイヤルを回して、効果を調節する。

調節する内容は以下の通り。

M. クロマキー	静止画の、青色の部分の調整。
M. ルミキー	静止画の、明るい部分の調整。
C. クロマキー	動画の、青色の部分の調整。
M. オーバーラップ	調節の必要はありません。

バー表示を減らすほど効果が大きくなる。

❼ スタート／ストップボタンを押して撮影を始める。

静止画を選び直す

手順7の前でメモリー ＋／－ボタンを押す。または、手順7の前で選択／[押]決定ダイヤルを押すと、手順4に戻る。

モードを選び直す

手順7の前で選択／[押]決定ダイヤルを押す。手順4に戻る。

メモリークロマキー／メモリールミキー／カメラクロマキー／メモリーオーバーラップを解除する

メモリーミックスボタンを押す。

テープの画像を静止画として取りこむ

Digital8方式でテープに記録された画像を、“メモリースティック”に静止画として記録することができます。

また、他機の画像を取りこんで、“メモリースティック”に静止画として記録することもできます。

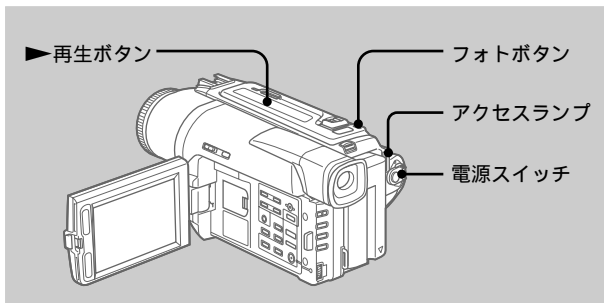
アクセスランプ点灯中および点滅中は
本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“メモリースティック”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

画面に「メモリースティックを確認してください」と表示されたら
フォーマットの形式が違うなど、本機で認識できない“メモリースティック”を使用しています。フォーマット形式をご確認ください。

再生中にフォトボタンを軽く押すと
テープは一時停止します。

テープに記録された音声は
記録できません。

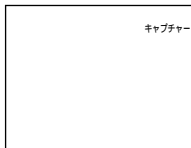
タイトル
テープにすでに記録されたタイトルは取りこめますが、再生中に重ねたタイトルを取りこむことはできません。

リモコンのフォトボタンを押すと
押したときに映っている画像が記録されます。

- Digital8方式で録画済みのテープを入れておいてください。
- あらかじめ“メモリースティック”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ ►再生ボタンを押す。

テープに録画された画像が映る。

❸ 画像を取り込みたい部分でフォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。

テープの画像が一時停止し、キャプチャー表示が出る。このとき記録はされません。

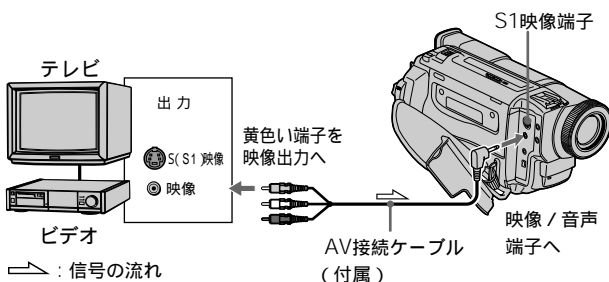
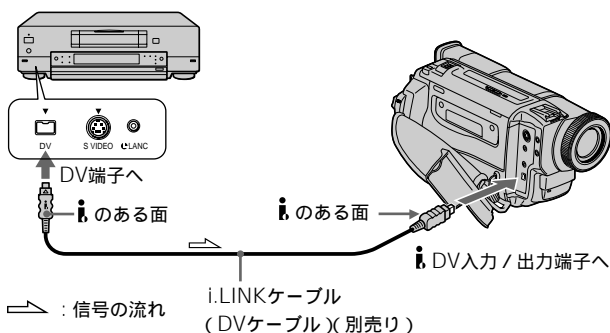
❹ フォトボタンを強く押し込む。

バーのスクロール表示が終わると、記録が完了する。

ボタンを押し込んだときの画像が“メモリースティック”に記録される。テープの画像は再生に戻る。

別売りのS映像ケーブルを使うと
録画画像がより鮮明になります。ビデオやテレビにS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色い端子（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで本機のS1映像端子とビデオ、またはテレビのS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。

他機をつないで静止画を取りこむ

AV接続ケーブルを使う

i.LINKケーブル（DVケーブル）を使う

❶ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にして、メニューの「画面表示」を「パネル」にする。

❷ 他機のビデオなどで再生を始める。または録画したいテレビを受信する。

他機の画像が液晶画面またはファインダーに映る。

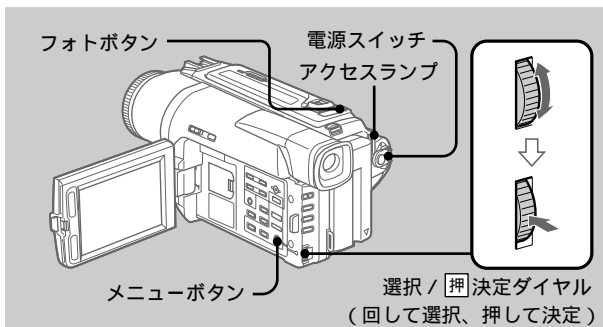
❸ 78ページの手順3〜4を行う。

テープの静止画を自動記録する－オートフォトコピー

サーチ機能を使って、Digital8方式でテープに記録されている静止画のみを“ メモリースティック ”に順次取りこんで、記録することができます。

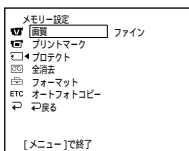
アクセスランプ点灯中及び点滅中は
本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“ メモリースティック ”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

テープの静止画をすべてコピーしたいときは
テープを最初まで巻き戻してから、コピーを行ってください。

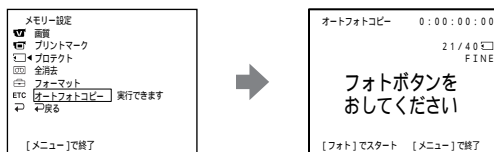
“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると
「実行できません」と表示されます。

- Digital8方式で録画済みのテープを入れて、巻き戻しておいてください。
- あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

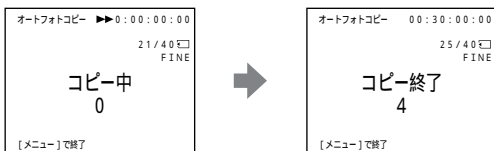
❶ 電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❸ 選択／押決定ダイヤルを回して「」を選び、押して決定する。

途中で“ メモリースティック ”を入れかえると
前の“ メモリースティック ”に記録した画像データの続きの画像から記録し始めます。

4 選択／押 決定ダイヤルを回して「オートフォトコピー」を選び、押して決定する。

「フォトボタンをおしてください」と表示される。

5 フォトボタンを強く押し込む。

テープの静止画が“ メモリースティック ”に記録される。コピーされた静止画の数が表示され、コピーが終了すると、「コピー終了」と表示される。

コピーを中止する

メニューボタンを押す。

“ メモリースティック ”の容量がいっぱいになると

「メモリーフル」と表示され、コピーは終了します。
“ メモリースティック ”を入れ換え、もう1度手順2から操作してください。

静止画を見る－メモリーフォト再生

“ メモリースティック ”に記録してある静止画を見ることができます。

また、インデックス表示をすると、画像を6枚ずつ表示することができます。

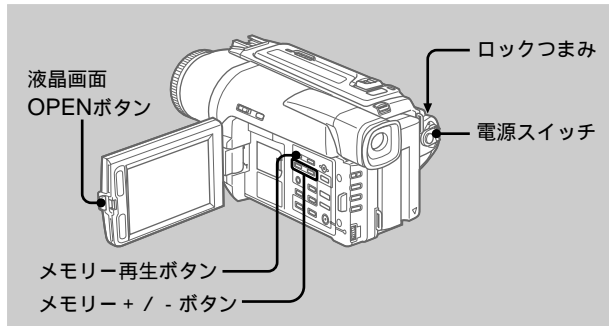
テレビで見るときは

- あらかじめ本機を付属のAV接続ケーブルでつないでおいてください。
- テレビや液晶画面でメモリーフォト再生をすると、画質が劣化しているように見えることがありますが、故障ではありません。データ上は問題ありません。
- テレビの音量を下げておいてください。テレビのスピーカーからピーという音（ハウリング）が出ることがあります。

“ メモリースティック ”内部に表示できる画像が1枚もないときは

「ファイルがありません」のメッセージが表示されます。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは

本機で再生できないことがあります。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」または「ビデオ」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ OPENボタンを押しながら、液晶画面を開ける。

❸ メモリー再生ボタンを押す。

最後に撮影した画像が出る。

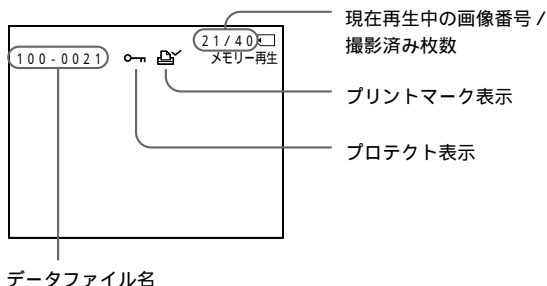
❹ メモリー＋／－ボタンを押して、静止画を選ぶ。

前の画像を見るときは、メモリー－ボタンを押す。

次の画像を見るときは、メモリー＋ボタンを押す。

メモリーフォト再生を止める

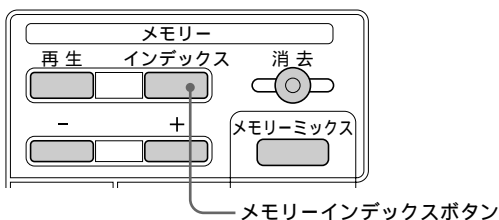
メモリー再生ボタンを押す。

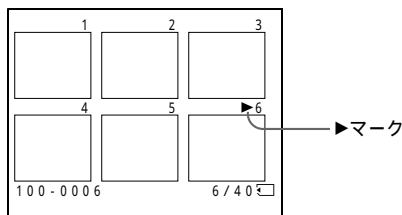
静止画再生中の画面表示

ご注意

インデックス表示をしているときの画像右上の番号は、“メモリースティック”の記録順を示す番号です。データファイル名（67ページ）とは違いますのでご注意ください。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは
インデックス表示をすることはできない場合があります。

画像を6枚ずつ表示する（インデックス表示）

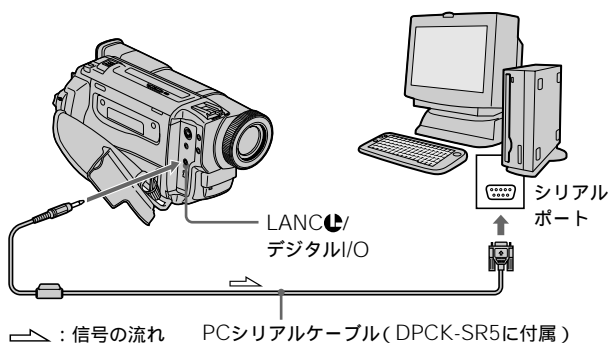
撮影した画像を6枚ずつ一度に再生できます。画像を検索するときなどに便利です。

メモリーインデックスボタンを押す

インデックス表示をする前に映っていた画像に赤色の▶マークが表示される。

- 次の6枚を見るときは、メモリー＋ボタンを押し続ける。
- 前の6枚を見るときは、メモリー－ボタンを押し続ける。

1枚の表示（シングル表示）に戻す

メモリー＋／－ボタンで▶マークを表示したい画像に移動し、メモリー再生ボタンを押す。

“ メモリースティック ”の画像をパソコンに取りこむ

別売りのパソコン接続キットDPCK-SR5を使って、“ メモリースティック ”に記録した静止画をパソコンに取りこむことができます。

1　**電源スイッチを「メモリー」にする。**

2　**液晶画面またはファインダーに「PCモード」と表示される。**
　通常の操作はできなくなります。

詳しくはパソコンの取扱説明書、およびDPCK-SR5に付属のPictureGear4.1 Liteの取扱説明書をご覧ください。

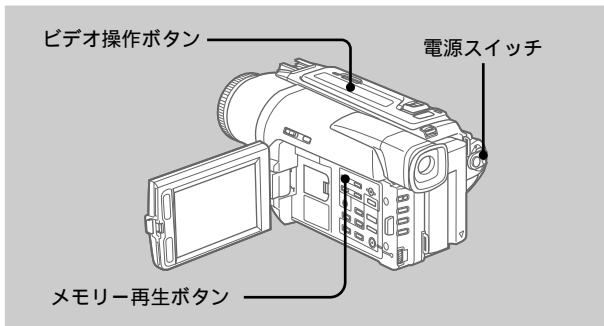
“メモリースティック”に撮った画像をテープにダビングする

あらかじめ“メモリースティック”に記録した静止画やタイトルなどをテープにダビングすることができます。

ダビング中は
メモリー再生ボタン、メモリーインデックスボタン、メモリー消去ボタン、メモリーミックスボタン、メモリー＋ボタン、メモリー－ボタンは操作できません。

インデックス画面は
ダビングできません。

ダビング一時停止中にエディットサーチをすると
メモリー再生は停止します。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは
ダビングできないことがあります。

- 記録用のテープを入れておいてください。
- あらかじめ“メモリースティック”を入れておいてください。

❶ **電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **ビデオ操作ボタンを使って、静止画をダビングしたい場所を探し、テープを再生一時停止にする。**

❸ **●録画ボタンを2つ同時に押し、録画一時停止にする。**

“メモリースティック”を使う

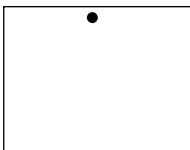
次のページへつづく

録画中または録画スタンバイ中に画面表示ボタンを押すと
タイムコードなど、テープに関する表示以外に、メモリー再生表示、ファイル名表示も見ることができます。

メモリー再生画に
タイトルを重ねてテープに録画することはできません。

❹ **ダビングしたい静止画をメモリー再生する。（82ページ）**

❺ **II一時停止ボタンを押して、録画を始める。**

録画を止めたいところでもう一度II一時停止ボタンを押す。

❻ **他にもダビングする場合は、手順4～5を繰り返す。**

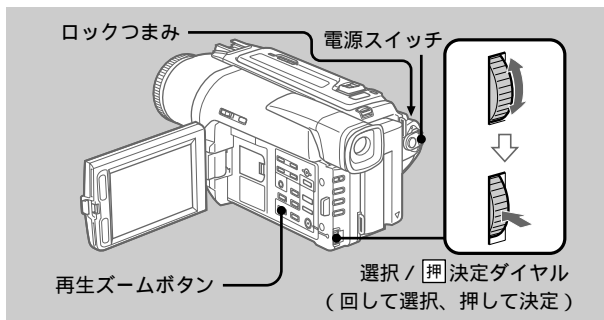
ダビングを途中で中止するときは

■停止ボタンを押す。

“メモリースティック”に撮った画像を拡大する
ーメモリー再生ズーム

“メモリースティック”に記録した静止画を
拡大して見ることができます。

ご注意

再生ズームを加えた画像は i.LINK DV入力/出力端子からは出力されません。

あらかじめ“メモリースティック”を入れておいて下さい。

1 電源スイッチを「メモリー」または「ビデオ」にする。

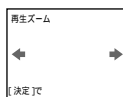
ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

2 ［メモリー再生中］に
再生ズームボタンを押す。

画像の中心部が拡大され、↑↓が表示される。

3 選択／押 決定ダイヤルを回して拡大された画像を上下に動かし、押して決定する。

↑：画像が下に移動する。
↓：画像が上に移動する。

4 選択／押 決定ダイヤルを回して拡大された画像を左右に動かし、押して決定する。

←：画像が右に移動する。
（ダイヤルを下へ回す）
→：画像が左に移動する。
（ダイヤルを上へ回す）

メモリー再生ズームを解除する

再生ズームボタンを押し、表示を消す。

静止画を順番に自動再生する–スライドショー

画像を順番に自動再生します。
記録された画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。

テレビで見るときは
あらかじめ本機を付属のAV接続ケーブルでつないでください。

設定中に“ メモリースティック ”を入れ換えると
スライドショーは動作しません。“ メモリースティック ”を入れ換えたら、初めから操作し直してください。

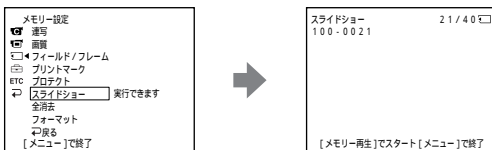
あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❸ 選択／押決定ダイヤルを回して「 」を選び、押して決定する。

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して「スライドショー」を選び、押して決定する。

❺ メモリー再生ボタンを押す。

“ メモリースティック ”の画像が順番に再生される。

スライドショーを中止する

メニューボタンを押す。

スライドショーを一時停止する

メモリー再生ボタンを押す。

お好みの画像からスライドショーを始める

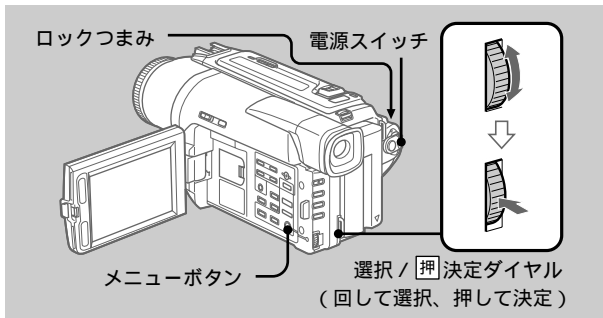
手順2の前にメモリー＋／－ボタンで最初の画像を選んでおく。

大事な画像を残す－プロテクト

大事な画像を誤って消さないために、撮影した画像を選んで誤消去防止（プロテクト）指定ができます。

ご注意

画像にプロテクトがかかっていても“ メモリースティック ”をフォーマットすると“ メモリースティック ”の内容はすべて失われますのでご注意ください。フォーマットする前に内容を確認してください。

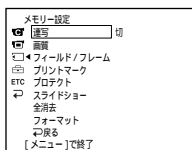
“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると
プロテクトは実行できません。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

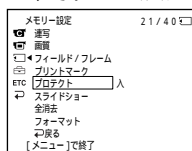
❶ 電源スイッチを「メモリー」または「ビデオ」にする。

ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ プロテクトする画像を再生する。（82ページ）

❸ メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❹ 選択／押 決定ダイヤルを回して「 」を選び、押して決定する。

❺ 選択／押 決定ダイヤルを回して「プロテクト」を選び、押して決定する。

❻ 選択／押 決定ダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。

❼ メニューボタンを押してメニュー画面を消す。

選択された画像にプロテクトがかかり、ファイル名に「O━π」マークがつきます。

プロテクトを解除する

手順6で「切」を選び、選択／押 決定ダイヤルを押す。

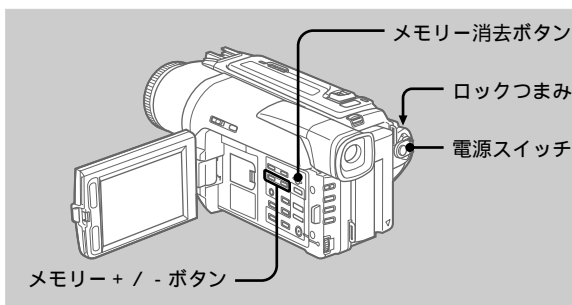
画像を消す－消去

不要になった画像を消去できます。撮影したすべての画像を消去したり、画像を選んで消去したりできます。

ご注意

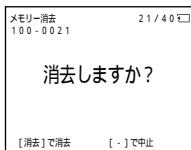
- プロテクトされている画像は消去できません。プロテクトされている画像を消去したいときは、あらかじめプロテクトを解除してください。
- 一度消去した画像はもとに戻せません。消去する前に内容を確認してください。

“ メモリースティック ”の誤消去防止つまみが「LOCK」になっていると
消去できません。

不要になった画像を消去する

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」または「ビデオ」にする。
ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ 消去したい画像を再生する。（82ページ）

❸ メモリー消去ボタンを押す。
「消去しますか？」の表示が出る。

❹ もう1度メモリー消去ボタンを押す。
画像が消去される。

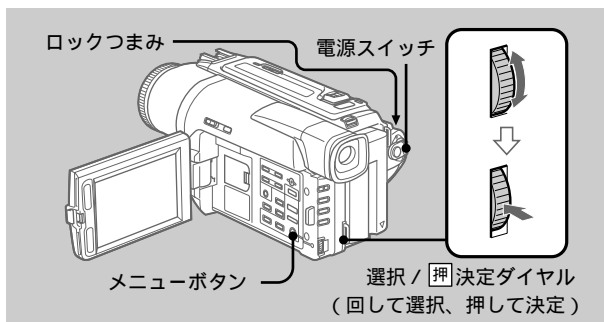
画像の消去を中止する

手順4でメモリー－ボタンを押す。

インデックス表示している画像を消す

メモリー＋／－ボタンで▶マークを消去したい画像に移動してから、手順3と4を行ってください。

すべての画像を消去する

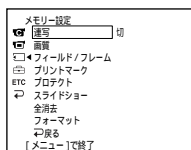
プロテクトのかかっていない画像ファイルをすべて消去します。

1 電源スイッチを「メモリー」または「ビデオ」にする。

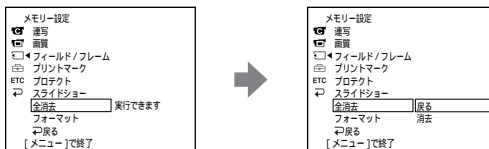
ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

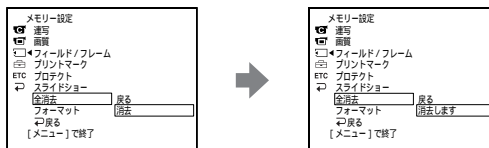
2 メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

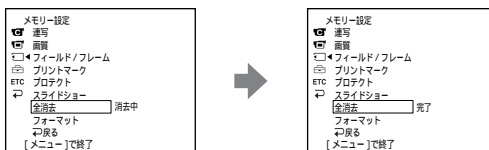
3 選択／押決定ダイヤルを回して「 」を選び、押して決定する。

“メモリースティック”を使う

次のページへつづく

「消去中」と表示されているときは
電源スイッチを切り換えたり、ボタン操作を行わないでください。

4 選択／押決定ダイヤルを回して「全消去」を選び、押して決定する。

5 選択／押決定ダイヤルを回して「消去」を選び、押して決定する。

「消去」が「消去します」の表示に変わる。

6 選択／押決定ダイヤルを押して決定する。

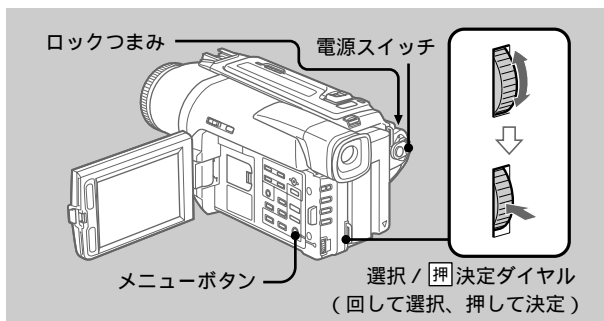
「消去中」と表示され、プロテクトのかかっていないすべての画像が消去されると、「完了」と表示される。

全消去を中止する

手順5で「戻る」を選び、選択／押決定ダイヤルを押す。

プリントマークを付ける–プリントマーク

“ メモリースティック ”に撮影した画像の中から、プリントしたい画像を直接指定して、マークを付けることができます。後でプリントするときに便利です。

本機はプリントしたい画像を選択できるDPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しています。

“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると
プリントマークは実行できません。

あらかじめ“ メモリースティック ”を入れておいてください。

❶ 電源スイッチを「メモリー」または「ビデオ」にする。

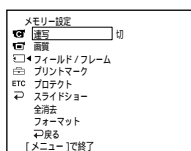
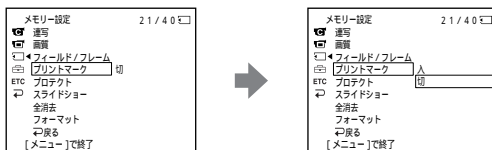
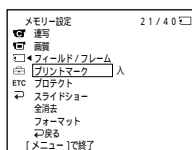
ロックつまみが左側になっているときは、右側（解除）にする。

❷ プリントマークを付ける画像を再生する。（82ページ）

❸ メニューボタンを押してメニュー画面を出す。

❹ 選択／押決定ダイヤルを回して「」を選び、押して決定する。

“メモリースティック” を使う

次のページへつづく

5 選択／押 決定ダイヤルを回して「プリントマーク」を選び、押して決定する。

6 選択／押 決定ダイヤルを回して「入」を選び、押して決定する。

7 メニューボタンを押してメニュー画面を消す。

プリントマークを付けた画像のファイル名に「 」マークがつきます。

プリントマークを解除する

手順6で「切」を選び、選択／押 決定ダイヤルを押す。

Digital8（デジタルエイト）方式と記録・再生

Digital8（デジタルエイト）方式とは

Hi8（ハイエイト）Hi8/Digital8（デジタルエイト）テープに、デジタル記録できるように開発されたビデオ方式です。

使えるカセットテープ

Hi8（ハイエイト）Hi8/Digital8（デジタルエイト）テープをおすすめします。*
Digital8（デジタルエイト）方式での録画時間は従来のHi8/スタンダード8方式の録画時間の半分になります（120分テープでは、SPモードで60分）。

* スタンダード8ミリ8テープにも録画できますが、本機で再生することをおすすめします。本機以外（他のDCR-TRV620Kを含む）での再生時にモザイク状のノイズが現れることがあります。

再生方式

Digital8（デジタルエイト）方式とHi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式を自動判別して再生します。

Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープを再生中、DV出力端子からの映像信号はデジタル信号が出力されます。

著作権信号について

再生するとき

本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機をつないで本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

記録するとき

著作権保護のための信号が記録されているカセットは本機で録画することはできません。
このようなカセットを録画しようとすると液晶画面またはファインダーに「ダビングプロテクトされています。録画できません」の表示が現れます。なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

音声多重記録テープを再生するとき

Digital8（デジタルエイト）方式で記録されたテープのとき

DV方式で記録された音声多重記録テープを、Digital8（デジタルエイト）方式テープにデジタルダビングし、再生するときは、下の表のように必要に応じてメニューの「バイリンガル」を設定してください。（57ページ）

メニューの「バイリンガル」の設定	再生される音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「切」にする	ステレオ音声	主音声＋副音声
「メイン」にする	左音声	主音声
「サブ」にする	右音声	副音声

Hi8/スタンダード8ミリ方式で記録されたテープのとき

AFM Hi-Fiステレオ方式で二重音声を記録したテープを再生するときは、下の表のように必要に応じてメニューの「バイリンガル」を設定してください。

メニューの「バイリンガル」の設定	再生される音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「切」にする	ステレオ音声	主音声＋副音声
「メイン」にする	モノラル音声	主音声
「サブ」にする	不自然な音声になります	副音声

本機では二重音声は記録できません。

ご注意

Digital8（デジタルエイト）方式で記録されたテープは、Hi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式のビデオ機器では再生できません。

8は商標です。
Hi8は商標です。
は商標です。

自動判別中の表示

Digital8（デジタルエイト）方式とHi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式を判別し、自動で再生方式を切り替えます。このとき画面が青画面になり下記の表示が出ます。また「ザー」とノイズ音が出ることがあります。
 → Hi8/8:Digital8（デジタルエイト）方式からHi8/スタンダード8ミリ方式に切り換え中
Hi8/8 → :Hi8/スタンダード8ミリ方式からDigital8（デジタルエイト）方式に切り換え中

i.LINK（アイリンク）について

本機のDV端子はi.LINKに準拠したDV入力/出力端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。

ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意

i.LINKケーブル（DVケーブル）で本機と接続できる機器は通常１台だけです。複数接続できるDV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。

IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100Mbps*）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。

本機のように特に転送速度の記載がされていない機器の最大転送速度は「S100」です。

最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？
「Megabits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のDV端子付きビデオとつないでダビングする方法については51ページをご覧ください。

また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK（DV）対応機器（パーソナルコンピュータVAIOシリーズなど）とも接続してご使用になれます。

接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書を合わせてご覧ください。

必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください
4ピン←→4ピン（DVダビング時）

ボタン型リチウム電池を交換する

電源をつけたまま交換します。

ボタン型リチウム電池は⊕と⊖の向きを正しく入れてください。ボタン型リチウム電池が必要なのは、合わせた日付・時刻などを電源の入／切に関係なく保持するためです。電池は市販のボタン型リチウム電池CR2025を使用してください。

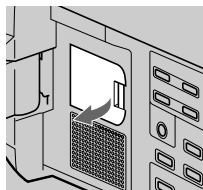
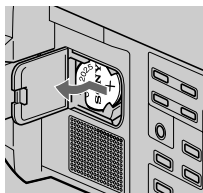
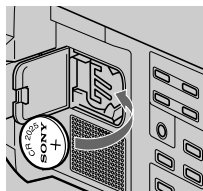
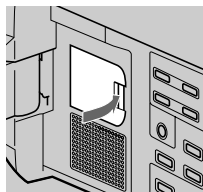
電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にすると液晶画面またはファインダーに「ボタン型リチウム電池を取りかえてください」のメッセージが出るとき。

ボタン型リチウム電池について

- ボタン型リチウム電池を誤って飲み込むことのないよう、本機および電池は特に幼児の手の届かないところに置いてください。
- 万一電池を飲み込んだ場合には、直ちに医師と相談してください。
- 接触不良を防ぐため、使用する前に電池を乾いた布でよくふいてください。
- 分解や加熱をしたり、ショートさせたり、火の中に入れたりしないでください。破裂するなどの危険があります。また、捨てるときは燃えないゴミとして適宜、処理してください。

お買い上げ時に装着済みのボタン型リチウム電池は

1年もたないことがあります。

❶ 液晶画面を開け、ボタン型リチウム電池ぶたを開ける。

❷ ボタン型リチウム電池を矢印の方向にずらして、引き出す。

❸ 新しいボタン型リチウム電池CR2025を⊕（プラス）面が見えるようにはめ込む。

❹ ボタン型リチウム電池ぶたを閉める。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンター、お買い上げ店にお問い合わせください。

液晶画面、ファインダーまたは表示窓に「C:□□:□□」のような表示が出たときは、自己診断表示機能が働いています。106ページをご覧ください。

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
スタート／ストップボタンを押してもテープが走行しない。	•電源スイッチが「カメラ」になっていない。	•「カメラ」にする。	12
	•テープが終わりになっている。	•巻き戻すか、新しいテープを入れる。	11、20
	•カセットが誤消去防止状態になっている。	•そのテープで撮るなら赤いツマミを元に戻す。または新しいテープを入れる。	11
	•テープがヘッドドラムに貼りついている（結露）。	•カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	110
電源が途中で切れる。	撮影スタンバイが3分以上続いたとき、バッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するために自動的に電源が切れます。	電源スイッチを一度「切（充電）」にしてからもう一度「カメラ」にする。	12
ファインダーの画像がはっきりしない。	視度調節が正しくない。	視度調節する。	14
手ぶれ補正が働かない。	•「手ぶれ補正」が「切」になっている。	•メニューで「入」にする。	57
オートフォーカスが働かない。	•手動ピント合わせになっている。	•フォーカススイッチを「自動」にする。	37
	•オートフォーカスが働きにくい状態で撮影している。	•手動でピントを合わせて撮影する。	37
フェーダーボタンが働かない。	デジタルエフェクト機能が働いている。	解除する。	32
ファインダーの画像が消えている。	液晶画面が開いている。	液晶画面を使って撮影しないときは液晶画面を閉じる。	13
LP**モードで録画できない。**	スタンダード8テープを使っている。	Hi8 Hi8/Digital8 テープを使う。	62

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
ろうそくの火やライトなどを暗い背景の中で撮ると、縦に帯状の線が出る。	背景とのコントラストが強い被写体の場合に出る現象で、故障ではありません。	ー	ー
明るい被写体を映すと、縦に尾を引いたような画像になる。	スミア現象といい、故障ではありません。	ー	ー
画面に白点が出ることがある。	スローシャッターやキャンドルモード、SUPER NIGHTSHOTのときに出る現象で、故障ではありません。	ー	ー
液晶画面またはファインダーに見慣れぬ画面が現れる。	カセットを入れずに電源スイッチを「カメラ」にして10分たつと、自動的にデモンストレーションが始まります。	カセットを入れるとデモンストレーションが中断される。デモンストレーションが出ないようにすることもできます。	63
画像の色が正しくない。	NIGHTSHOTが「入」になっている。	「切」にする。	16
画面が白すぎて画像が見えない。	明るいところでNIGHTSHOTを「入」にしている。	「切」にする。または暗いところで撮影する。	16
テレビやコンピューターの画面を撮影すると黒い帯がでる。	ー	メニューの「手ぶれ補正」を「切」にする。	57

再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
ビデオ操作ボタンが働かない。	電源スイッチが「ビデオ」になっていない。	「ビデオ」にする。	20
ビデオ再生ボタンが働かない。	テープが終わりになっている。	テープを巻き戻す。	20
画像に横線が入る。またはぼけたり映らなかったりする。	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	110
音声が小さい。または聞こえない。	• メニューの「バイリンガル」を「サブ」にしてステレオで記録されたテープを再生している。 • 音量を最小にしている。 • メニューの「音声ミックス」が「ST2」側になっている。	• 「バイリンガル」を「切」にする。 • 音量を大きくする。 • 「音声ミックス」を調節する。	57 21 57
日付サーチが誤動作する。	テープの途中に無記録部分がある。	–	47
Digital8**方式で記録された部分の画像が映らない。**	メニューの「再生モード」が「[Hi8]/[8]」になっている。	「再生モード」を「オート」にする。	57
Hi8/**スタンダード**8**ミリ方式で記録されたテープが正しく再生されない。**	–	メニューの「再生モード」を「Hi8/8」にしてみる。	57

撮影中・再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
電源スイッチを「ビデオ」／「カメラ」／「メモリー」にしても動作しない。	•バッテリーが消耗している／入っていない／消耗が近い。 •ACパワーアダプターのプラグがコンセントからはずれている。	•充電されたバッテリーを取り付ける。 •コンセントに差し込む。	6、7 10
エンドサーチが働かない。	•撮影後にカセットを取り出した。 •カセットを入れてからエンドサーチボタンを押すまでに、１度も撮影していない。	ー ー	19 19
エンドサーチが誤動作する。	テープの冒頭や途中に無記録部分がある。	ー	19
バッテリーの消耗が早い。	•周囲の温度が極端に低い。 •充電が不充分。 •バッテリーそのものの寿命。	ー •満充電する。 •新しいバッテリーに交換する。	ー 7 6
バッテリー残量表示が正しくない。	•温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。 •バッテリーそのものの寿命。 •バッテリーが消耗している。	ー •新しいバッテリーに交換する。 •充電されたバッテリーを取り付ける。	ー 6 6、7
バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。	ー	満充電する。	7
カセットが取り出せない。	•電源（バッテリーやACパワーアダプター）がはずれている。 •バッテリーが消耗している。	•電源をきちんと接続する。 •充電されたバッテリーを取り付ける。	7、10 6、7
💧や⏏が点滅し、カセット取出しスイッチ以外働かない。	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	110

その他

“ メモリースティック ”操作中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
操作を受け付けない。	•電源スイッチが「カメラ」または「切(充電)」になっている。	•「メモリー」にする。	69
	•“ メモリースティック ”が入っていない。	•“ メモリースティック ”を入れる。	68
撮影ができない。	•すでにメモリー容量いっぱいに撮影している。	•不要な画像を消去してから撮影する。	92
	•フォーマット形式の異なる“ メモリースティック ”を入れた。	•フォーマットするか、別の“ メモリースティック ”を入れる	61
	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	•「LOCK」を解除する。	67
画像を消去できない。	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	•「LOCK」を解除する。	67
	•プロテクトされている。	•プロテクトを解除する。	90
フォーマットが実行できない。	“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除する。	67
全消去が実行できない。	“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除する。	67
プロテクトが実行できない。	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	•「LOCK」を解除する。	67
	•プロテクト操作をしたい画像が表示されていない。	•メモリー再生ボタンを押して画像を表示する。	82
プリントマークが実行できない。	•“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	•「LOCK」を解除する。	67
	•プリントマーク操作をしたい画像が表示されていない。	•メモリー再生ボタンを押して画像を表示する。	82
オートフォトコピーが実行できない。	“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除する。	67

その他

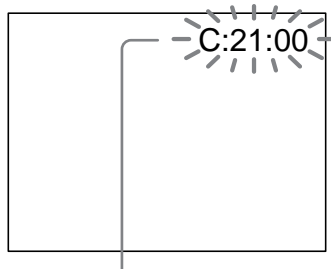
こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
付属のワイヤレスリモコンが働かない。	•メニューの「リモコン」を「切」にしている。	•「入」にする。	57
	•リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がある。	•障害物を取り除く。	ー
	•リモコンの乾電池の⊕極と⊖極が、正しく入っていない。	•⊕極と⊖極を正しく入れる。	117
	•乾電池そのものの寿命。	•新しい乾電池に交換する。	117
外部入力しているのに液晶画面やTVに画像が映らない。	メニューの「画面表示」が「ビデオ出力／パネル」になっている。	「パネル」にする。	57
おしらせブザーが5秒間鳴りつづける。	•結露している。	•カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す。	110
	•本機に異常が発生している。	•カセットを入れ直し、再度操作し直す。	ー
バッテリー充電中、表示窓に何も表示が出ない。または表示が点滅する。	•ACパワーアダプターが外れている。	•電源をきちんと接続する。	10
	•バッテリーが故障している。	•テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。	ー

自己診断表示－アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。

これは本機が正しく動作していないときに、液晶画面、ファインダーまたは表示窓にアルファベットと数字の5桁の表示でお知らせする機能です。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。

詳しくは以下の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

液晶画面、ファインダーまたは表示窓

自己診断表示
「C:□□:□□」：
お客様自身で正常に戻せる状態
「E:□□:□□」：
テクニカルインフォメーションセンターに相談していただく状態

表示	原因	対応の仕方	参照ページ
C:04:□□	“インフォリチウム”以外のバッテリーを使用している。	“インフォリチウム”バッテリーをご使用ください。	8
C:21:□□	結露している。	カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	110
C:22:□□	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	110
C:31:□□ C:32:□□	お客様自身で対応できる上記以外の状態になっている。	• カセットを入れ直し、再度操作し直す。 • 電源を一度取りはずし、取りつけ直してから再度操作し直す。	ー ー
E:61:□□ E:62:□□	お客様自身で対応できない状態になっている。	テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。その際は、表示の5桁すべてをお知らせください。 例：E:61:10	ー

お客様自身で対応できる場合でも、2、3度繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

警告表示とお知らせメッセージ

液晶画面とファインダーには、次のような表示が出ます。詳しい説明は、（　）内のページにあります。

警告表示

データファイルの警告
遅い点滅
- ファイルが壊れている
- 扱えないファイル

“ メモリースティック ”関連の警告*
遅い点滅
- “ メモリースティック ”が入っていない（68）

速い点滅
- 認識できない“ メモリースティック ”が入っている（67）

“ メモリースティック ”フォーマット関連の警告*
速い点滅
- “ メモリースティック ”が正しくフォーマットされていない（61）
- “ メモリースティック ”が壊れている
- 対応していないサイズの“ メモリースティック ”が入っている

バッテリー残量に関する警告
遅い点滅
- バッテリー残量が少ない（7）

速い点滅
- バッテリー残量がない（7）
  状況によってはバッテリー残量が5分から10分ほどでも警告表示が点滅することがあります。

テープ関連の警告
遅い点滅
- テープ残量が5分を切った
- テープが入っていない（11）
- テープが誤消去防止状態になっている*（11）

速い点滅
- テープが終わっている*

画像プロテクトの警告*
遅い点滅
- 画像が消去できないようになっている（90）

自己診断表示（106）

結露の警告*
速い点滅
- テープが結露している
  テープを取り出し、電源をはずしてカセット入れを開けたまま約1時間放置する（110）

テープを取り出す必要がある警告*
遅い点滅
- テープが誤消去防止状態になっている（11）

速い点滅
- 結露している（110）
- テープが終わっている
- 自己診断表示が出ている（106）

ボタン型リチウム電池の警告
遅い点滅
- ボタン型リチウム電池の消耗または取り付けられていない（99）

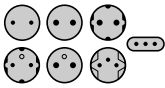
* 警告表示／お知らせメッセージが出るときに、「おしらせブザー」が鳴ります。

お知らせメッセージ

警告表示とともに、以下のお知らせメッセージが出ます。
メッセージにしたがって操作してください。

- バッテリーを取りかえてください（6）
- このバッテリーは古くなりました　取りかえてください（6）
- “インフォリチウム”バッテリーをつかってください（8）
- テープが終わっています*
- カセットを入れてください*（11）
- カセットの誤消去防止ツマミを確認してください*（11）
- Hi8テープでなければLP録画できません　SP録画になります*（62）
- メニューで日付・時刻をあわせてください（65）
- ヘッドが汚れています／クリーニングカセットをつかってください**（110）
- 結露しています　カセットを取り出してください*（110）
（カセットが入っていないとき、メッセージは「結露しています」*になります。）
- ダビングプロテクトされています　録画できません*（97）
- ボタン型リチウム電池を取りかえてください（99）
- メモリースティックを確認してください*（78）
- メモリースティックのメモリーがいっぱいです*（73）
- メモリーフル（81）
- メモリースティックの誤消去防止ツマミを確認してください（67）*
- ファイルがありません*（82）
- メモリースティックを入れてください*（68）
- メモリースティックエラー*（67）
- メモリースティックフォーマットエラー*（61）
- メモリースティックディレクトリエラー*（67）

* 警告表示／お知らせメッセージが出るときに、「おしらせブザー」が鳴ります。
** 液晶画面またはファインダーに「ヘッドが汚れています」と「クリーニングカセットをつかってください」の表示が交互に出ます。

海外で使う

本機は外国でもお使いになれます

付属のACパワーアダプターAC-L10 は、AC100V〜240V・50/60Hzの広範囲な電源でお使いいただけます。

また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。

トラベルコンバーターはご使用にならないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米、南米など	主にヨーロッパなど
使用する変換アダプター	**不要です。** ACパワーアダプターのプラグを直接差し込みます。	

再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）で、映像/音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）および接続ケーブルが必要です。

日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）を採用している国または地域（五十音順）

- アメリカ合衆国
- エクアドル
- エルサルバドル
- カナダ
- キューバ
- グアテマラ
- グアム
- コスタリカ
- コロンビア
- スリナム
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ
- トリニダードトバコ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バミューダ
- バルバドス
- フィリピン
- プエルトリコ
- ベネズエラ
- ペルー
- 米領サモア
- ボリビア
- ホンジュラス
- ミクロネシア
- ミャンマー
- メキシコ

時差補正機能について

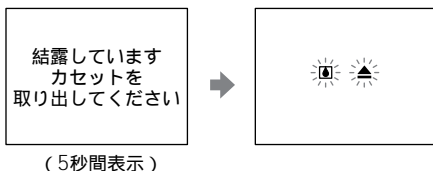
海外でお使いになるときはメニューで「時差補正」を選べば、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせることができます。詳しくは57ページをご覧ください。

お手入れ

結露について
結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、液晶画面またはファインダーに下のように警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

結露しています
カセットを
取り出してください

（5秒間表示）

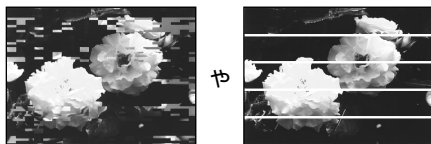
→

結露が起きたときは
カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、カセット取り出しスイッチ以外は働きません。
電源を切ってカセット入れを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても⏏が点滅しなければ使用できます。

液晶画面をきれいにする
液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

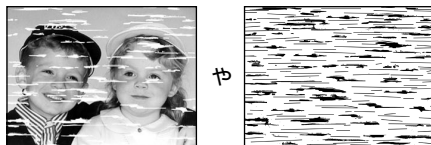
ヘッドをきれいにする
ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったりします。
次のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットV8-25CLD/V8-25CLDRを使ってヘッドをきれいにしておきましょう。

Digital8（デジタルエイト）方式での再生／録画
- 再生画面に四角いノイズが出る。
- 再生画面の一部が動かない。
- 再生画像が出ない。
- 液晶画面またはファインダーに「ヘッドが汚れています」と「クリーニングカセットをつかってください」の表示が交互に出る。

ビデオヘッドが汚れているときの画像

や

Hi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式での再生
- 再生画面がザラついている。
- 再生画面が不鮮明。
- 再生画像が出ない。

ビデオヘッドが汚れているときの画像

や

このような画像になったら、クリーニングカセットをお使いください。

結露が起こりやすいのは
次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。
- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

結露を起こりにくくするために
本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドは
長時間使用すると摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

主な仕様

システム

録画／録音	回転2ヘッドヘリカルスキャン
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式
使用カセット	Hi8（ハイエイト）/Digital8（デジタルエイト）ビデオカセットテープ
録画／再生時間	SP：60分 LP：90分 （Hi8120分テープ使用時）
早送り、巻き戻し時間	約5分（Hi8120分テープ使用時）
ファインダー	電子ファインダー（カラー）
撮像素子	1/4型CCD固体撮像素子 約68万画素（有効画素数：約34万画素）
ズームレンズ	25倍（光学）、100倍（デジタル） f=3.7〜92.5mm （35mmカメラ換算では48〜1200mm） F1.6〜3.3 フィルター径37mm
色温度切り換え	自動追尾
最低被写体照度	7ルクス（F1.6） 0ルクス（NIGHTSHOT時）

入・出力端子

S1映像端子	Y出力　1Vp-p 75Ω不平衡 C出力　0.286Vp-p 75Ω不平衡
映像／音声端子	AVミニジャック 映像：1Vp-p 75Ω不平衡 音声：入力時327mV、インピーダンス47kΩ以上 出力時327mV、（47kΩ以上負荷時）インピーダンス2.2kΩ以下
🎧（ヘッドホン）端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）
LANC/デジタルI/O端子	特殊ミニミニジャック（Ø2.5）
マイク入力端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）
i DV入力/出力端子	i.LINK（IEEE1394．4ピン特殊コネクターS100）

液晶画面

画面サイズ	3.5型
総ドット数	123,200ドット 横560×縦220

電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力7.2V DC IN端子8.4V
消費電力 （バッテリー使用時）	3.0W （ファインダー使用時） 4.2W （液晶画面使用時、明るさ標準）
動作温度	0℃〜+40℃
保存温度	–20℃〜+60℃
外形寸法 （最大突起部をのぞく）	111 × 106 × 207mm （幅×高さ×奥行き）
本体質量	約 990g（本体のみ）
撮影時総質量*	約 1.1kg *バッテリーNP-F330、ボタン型リチウム電池CR2025、Hi8120分テープ含む。
付属品	“メモリースティック”4Mバイト（1） ACパワーアダプターAC-L10（1） バッテリーパックNP-F330（1） レンズキャップ（1） ワイヤレスリモコン（1） 単3型乾電池（リモコン用）（2） AV接続ケーブル（1） ボタン型リチウム電池CR2025（本体に装着済み）（1） 撮り方ビデオ（1） 取扱説明書（1） カスタマーご登録はがき（1） ハンディカムカスタマーご登録のお勧め（1） カスタマーご登録CD-ROM（1） 保証書（1）

ACパワーアダプターAC-L10

電源	AC100~240V、50/60Hz
定格出力	DC8.4V、1.5 A
動作温度	0℃〜+40℃
保存温度	–20℃〜+60℃
外形寸法 （最大突起部をのぞく）	約125 × 39 × 62 mm （幅×高さ×奥行き）
質量	約 280g（本体のみ）

バッテリーパックNP-F330

電圧	7.2V
容量	5.0Wh（700mAh）
種類	Li-ion

“メモリースティック”

メモリーの種類	フラッシュメモリー 4Mバイト　MSA-4A
動作電圧	2.7V〜3.6V
消費電流	動作時平均：約45mA スタンバイ時：約130μA
外形寸法	約50×2.8×21.5mm （幅×高さ×奥行き）
本体質量	約4g

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

このデジタルビデオカメラレコーダーは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

“故障かな？と思ったら”の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンター（本書の裏面参照）にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

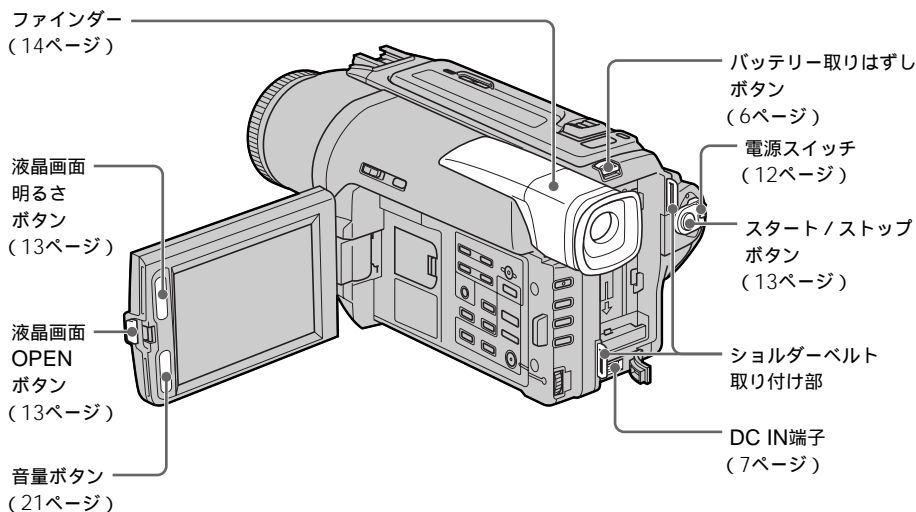
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

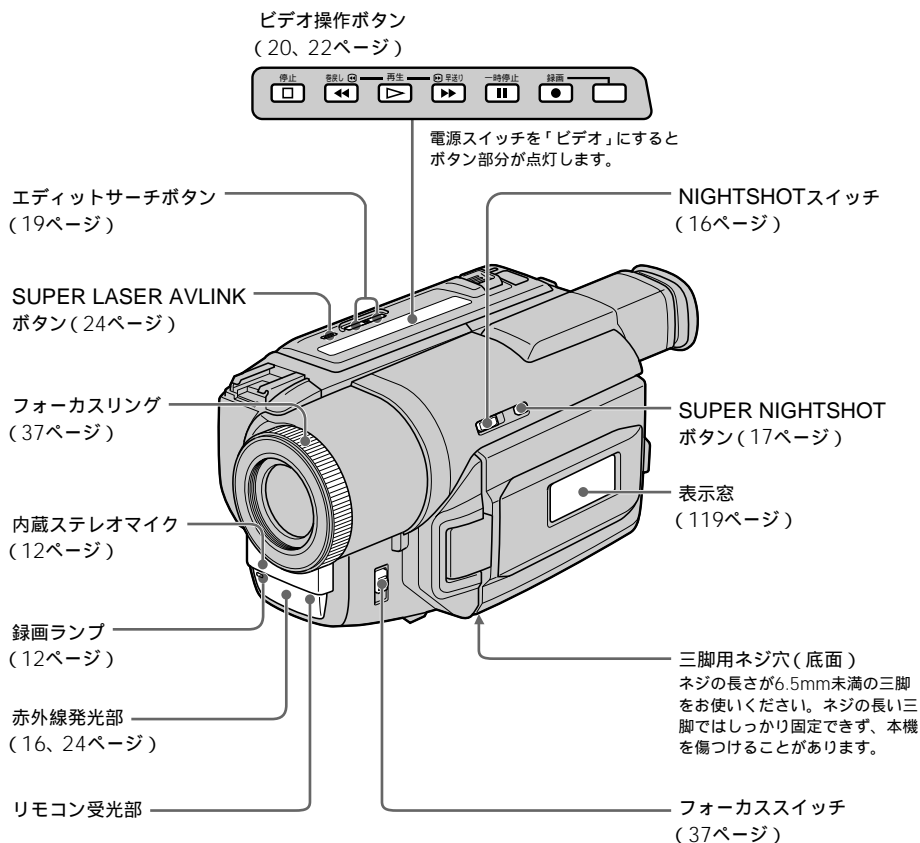
当社はデジタルビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

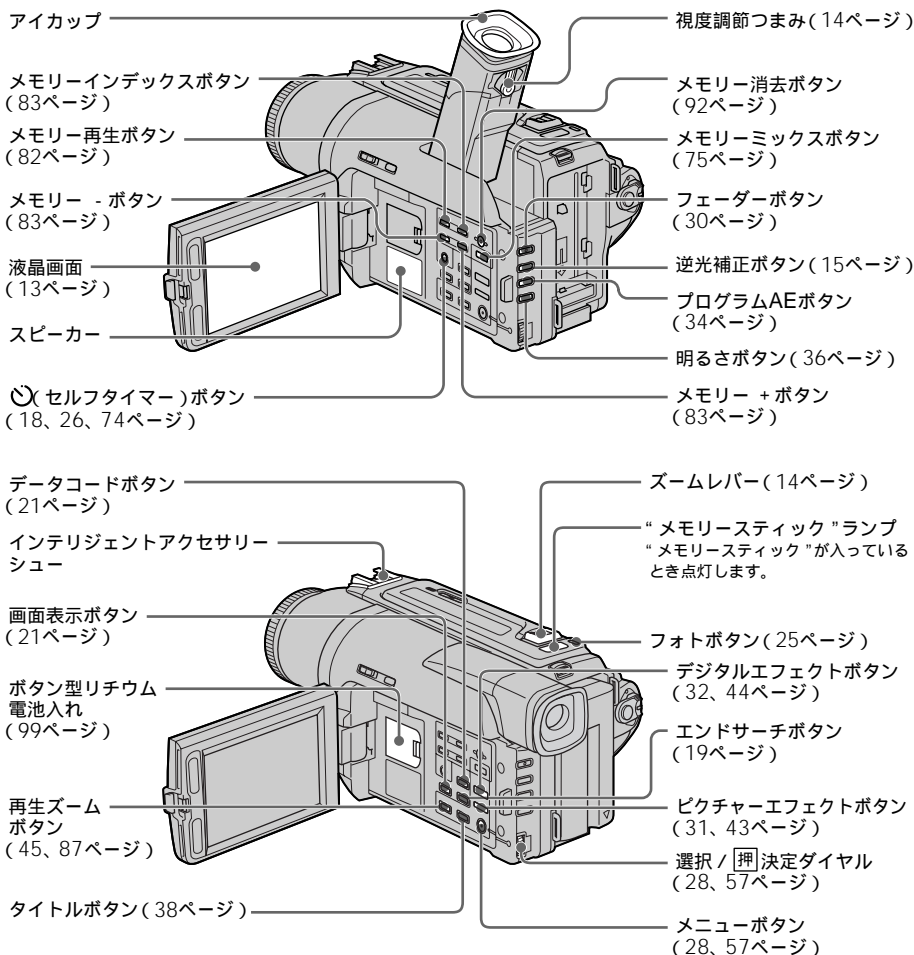
各部のなまえ

使いかたの説明は、(　)内のページにあります。

本体

この純正マークは、ソニー(株)のビデオ機器関連商品が純正製品であることを表すマークです。

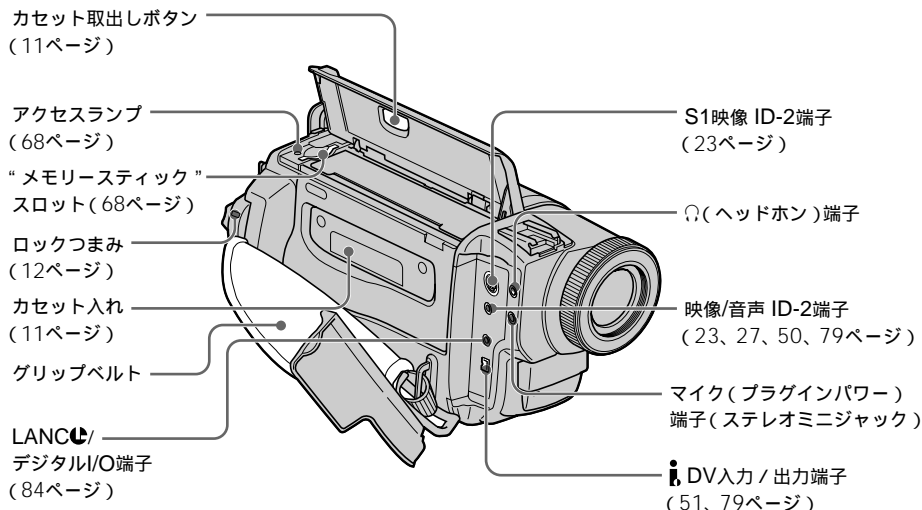
ソニー(株)のビデオ機器をお求めの際は, 純正マークもしくはソニーロゴタイプが表示されているビデオ機器関連商品をご購入されることをおすすめします。

次のページへつづく

SUPER LASER AVLINK
（スーパーレーザーエーブイリンク）とは

マークのあるSUPER LASER AVLINK対応機器の間で赤外線による映像と音声の送受信をおこなうシステムです。

Intelligent Accessory Shoe

インテリジェントアクセサリーシューについて

- 別売りの専用マイクやビデオライトなどをお使いになると、本機から電源を供給できます。
- 本機の電源スイッチに連動して、アクセサリーの電源の入／切ができます。
（お使いになるアクセサリーの取扱説明書をあわせてご覧ください。）
- 取り付けたアクセサリーがはずれて落ちたりしないように、はずれにくい構造になっています。アクセサリーを取り付けるときは、押しながら奥まで差し込み、取り付けネジを確実に締め付けてください。
- アクセサリーを取りはずすときは、取り付けネジをゆるめ、上から押しながらはずしてください。

次のページへつづく

LANC（リモート）マークについて

は、LANK端子のマークです。LANC端子とは、ビデオ機器と周辺機器を接続し、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

ヘッドホンを使うと

スピーカーから音は出ません。

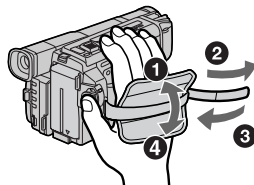
別売りの外部マイクを使う場合

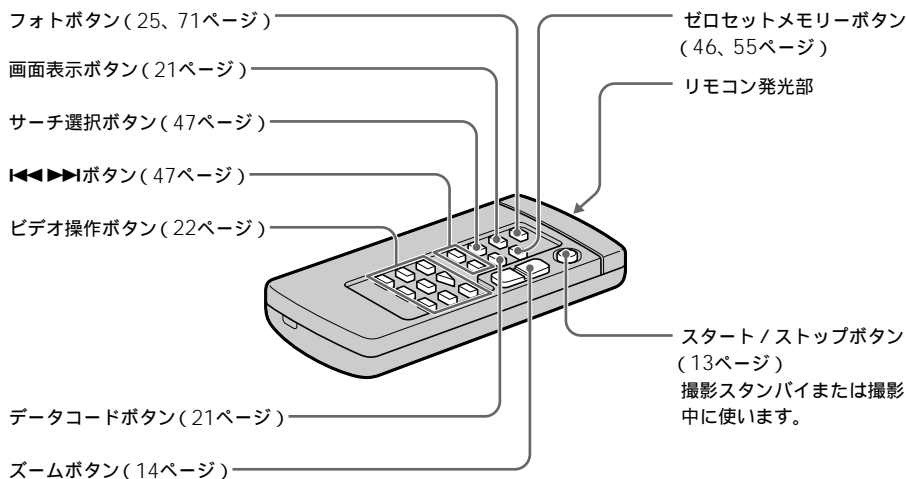
マイク（プラグインパワー）端子はプラグインパワー方式の外部マイク用電源端子とマイク入力端子が兼用になった端子です。

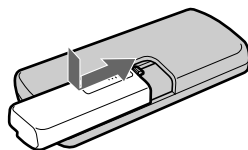
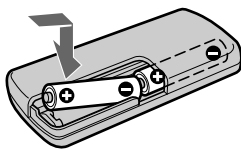
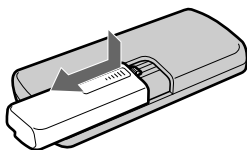
PCとの接続

- パソコンで加工したり編集した画像をi.LINKケーブルを使って本機で録画するときは新しいHi8/Digital8テープをお使いください。
- Hi8/スタンダード8ミリ（アナログ）方式で記録した画像をパソコンに取り込むときは、一度Digital8方式またはDV方式のビデオへダビングし、その画像をパソコンに取り込んでください。

DV端子は、i.LINKに準拠したDV入出力専用の端子です。

グリップベルトのしめ方

グリップベルトはしっかりとしめてください。

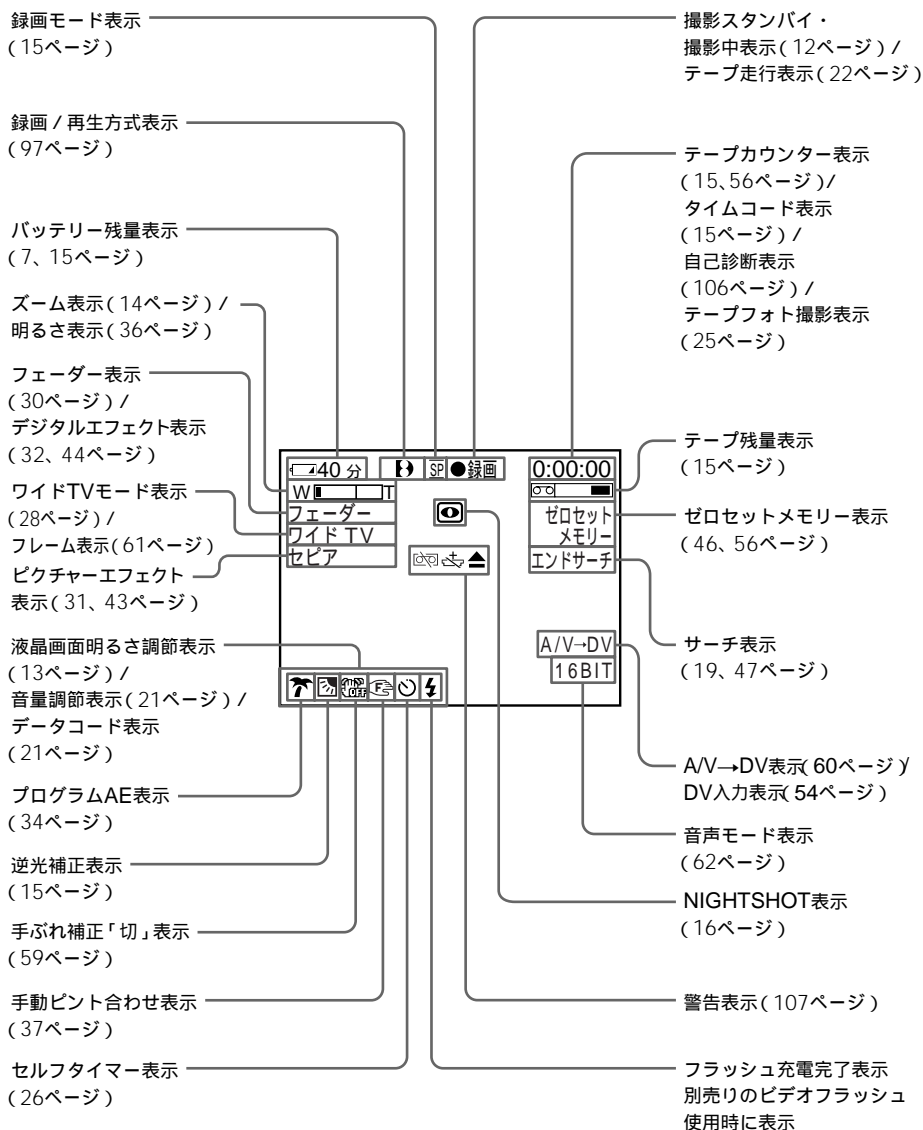
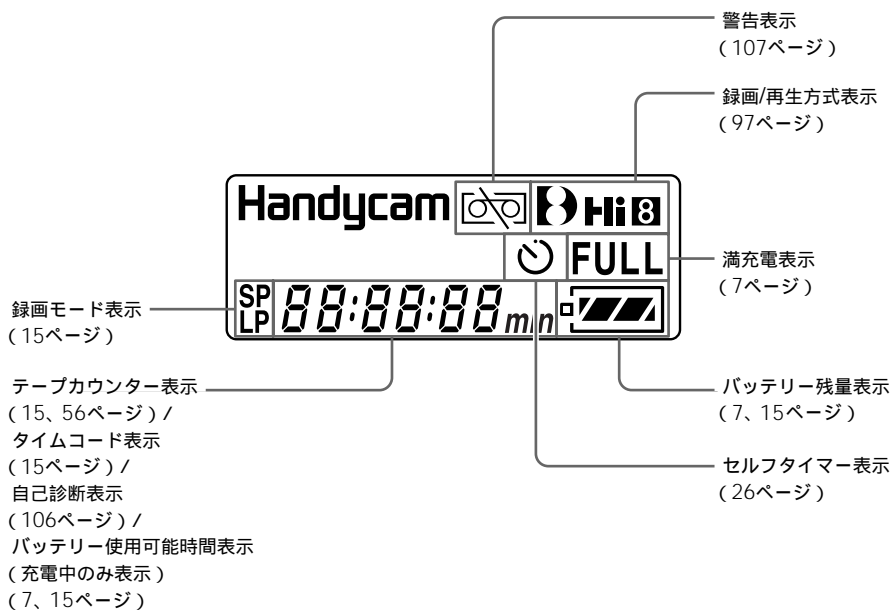
ワイヤレスリモコン

電池の入れかた

❶ **押しながらずらす。** ❷ **入れる。** ❸ **元に戻す。**

リモコンについて

- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光があたらないようにご注意ください。リモコン操作ができないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、他のビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

液晶画面とファインダーの表示

表示窓の表示

警告表示
（107ページ）
録画/再生方式表示
（97ページ）
Handycam
Hi8
FULL
満充電表示
（7ページ）
録画モード表示
（15ページ）
SP
LP
88:88:88
min
テープカウンター表示
（15、56ページ）／
タイムコード表示
（15ページ）／
自己診断表示
（106ページ）／
バッテリー使用可能時間表示
（充電中のみ表示）
（7、15ページ）
バッテリー残量表示
（7、15ページ）
セルフタイマー表示
（26ページ）

主な機能ガイド

明るさが気になるときの機能［撮影中］

インパクトある画像を作るための機能［撮影中］

さりげなく自然な画像にするための機能［撮影中］

撮影後の編集・お手持ちの機器との接続のための機能［撮影中］

撮影し終わったテープで行う機能［再生中］

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

カスタマー登録のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

ソニーではハンディカムをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマー登録」をお勧めしています。詳しくは同梱の「ハンディカム カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

カスタマー登録に関する問い合わせ
ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク
電話： 03-3584-6651
受付時間：月～金曜日　午前10時～午後6時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■ デジタルイメージングカスタマーサポート
デジタルハンディカムとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。
http://www.sony.co.jp/support-di/

■ テクニカルインフォメーションセンター
本機をお使いになって不明な点、技術的なご質問、故障と思われるときのご相談窓口です。
電話： 0564-62-4979
受付時間： **月～金曜日　午前9時～午後5時**
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

D-Imaging World（デジタルイメージングワールド）
ハンディカムやデジタルスチルカメラを楽しく使っていただくためのホームページです。
http://www.sony.co.jp/di-world/

Sony online　http://www.world.sony.com/
「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

この説明書は再生紙を使用しています。

ソニー株式会社
〒141-0001
東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ　●ナビダイヤル：0570-00-3311（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）　●携帯電話・PHSでのご利用は：03-5448-3311
●Fax：0466-31-2595
受付時間： 月～金 9:00～20:00、 土・日・祝日 9:00～17:00

Printed in Japan